会津美里町地域公共交通網形成計画

平成３１年３月

会津美里町

― 目 次 ―

1. はじめに 1
1－1 計画の目的 1
1－2 計画の役割と位置付け 2
1－3 計画の区域 3
1－4 計画の期間 3
2. 上位・関連計画におけるまちづくりの方向性 4
2－1 町が目指す将来像の整理 4
2－2 公共交通に求められる役割の整理 5
2－3 関連事業の整理 8
2－4 上位・関連計画における公共交通の位置付け・役割 9
3. 地域の現状 10
3－1 会津美里町の概況 10
3－2 人口 11
3－3 生活利便施設などの分布 14
3－4 町民の移動実態 21
3－5 地域の現状にみる問題点 23
4. 地域の公共交通の現状 24
4－1 公共交通網の整備状況 24
4－2 JR只見線の運行・利用状況 26
4－3 路線バスの運行・利用状況 27
4－4 美里あいあいタクシーの運行・利用状況 28
4－5 公共交通に対するニーズ 35
4－6 公共交通の現状・ニーズにみる問題点 45
5. 公共交通の課題の整理 47
6. 基本的な方針と目標 49
6－1 基本理念・基本方針 49
6－2 基本目標 50
6－3 公共交通の将来像 52
7. 目標達成のための事業及びその実施主体 55
7－1 目標を達成するための具体的施策 55
7－2 施策1：地域公共交通の再編 57
7－3 施策2：交通結節点の機能向上と複合化 62
7－4 施策3：利用環境の改善 65
7－5 施策4：利用促進の取り組み 67
8. 計画目標の達成状況の評価 69
8－1 施策の進行管理 69
8－2 計画の推進体制 69
8－3 PDCA サイクルによる評価・検証 70
8－4 数値目標 70
8－5 モニタリングの方法 74
参考資料 75
9. 用語 81

１．はじめに

１－１　計画の目的

（１）地域公共交通網形成計画とは

地域公共交通網形成計画（以下、本計画という）は、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成１９年法律第５９号）に基づく計画で、「地域にとって望ましい公共交通ネットワークの姿」を明らかにする「地域公共交通の基本計画」としての役割を果たすものです。

本計画に基づき、地域公共交通に関する取り組みを計画的に進めることで、限られた資源を有効に活用し、持続可能な地域公共交通網の形成を図ります。

（２）策定の背景

本町には、ＪＲ只見線、路線バス（広域路線３路線５系統）、デマンド交通（以下、美里あいあいタクシーという）などの公共交通が運行しており、自家用車を運転できない高齢者の通院・買い物などや高校生の通学、更には通勤などといった町民の日常生活の移動手段として重要な役割を果たしています。町の交通施策としては、平成１９年に、町民の日常の足を守るとともに、地域商業の活性化と持続可能な公共交通の両立を目指して、路線バスの再編と美里あいあいタクシーが導入されています。

一方、自家用車の普及・進展や人口減少・少子化に伴う利用者の低迷と運行欠損の増加に歯止めがかからないことや、今後の更なる人口減少による影響、予想される町負担額の増加、交通事業者の担い手不足など、地域公共交通を取り巻く環境は大変厳しい状況となっています。

また、単に移動手段の確保を目的とした公共交通ではなく、地域の経済・商業や観光施策、定住施策など、「まちづくり」の観点も踏まえた交通施策が必要となっています。

そこで、これまでの道路運送法に基づく地域の実情に即した輸送サービスの実現に加え、各公共交通機関が果たしてきた役割を維持確保することはもとより、地域住民が「出かける」ための足の充実や仕掛けづくり、更には、まちづくりの観点から地域住民・来訪者の交流を生み出すなど、まちづくりと連携した公共交通網の形成がこれからの地域公共交通政策に求められています。

（３）計画の目的

こうした背景を踏まえ、本計画では、地域公共交通の現状・課題を明らかにし、町の将来像を実現する上で公共交通の果たすべき役割や本町にとって望ましい公共交通網の姿と目標を示すとともに、その実現のための施策体系及び地域住民・交通事業者・行政の役割を定めるものとします。

１－２　計画の役割と位置付け

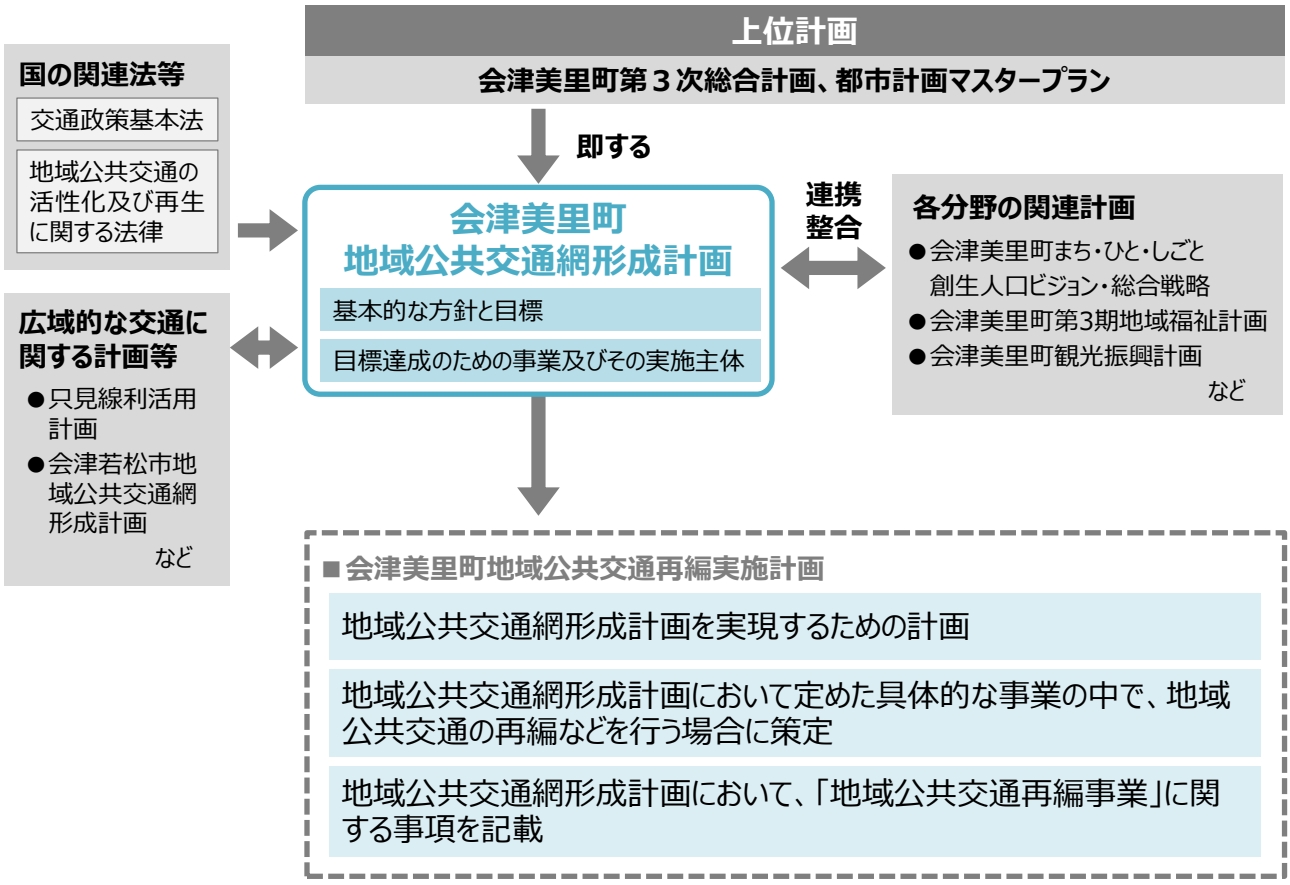
（１）計画の役割

本計画は、以下の６つの役割を担います。

①地域公共交通のマスタープランとして、地域にとって望ましい公共交通ネットワークの姿を明らかにする(ビジョン及び施策体系)
②会津美里町のまちづくり(都市計画、商業、観光振興など)との一体性を確保する
③地域特性に応じた多様な交通サービスによるネットワーク構築を目指す
④地域・企業など多様な関係者との連携を推進する
⑤広域性を確保する
⑥具体的な数値目標とPDCAサイクルによる計画の見直しを行う

（２）計画の位置付け

本計画は、上位計画である「会津美里町第３次総合計画」や「会津美里町都市計画マスタープラン」との整合性を図り、それら計画で定める町の将来像の実現に向けて、公共交通の果たすべき役割を明らかにするとともに、本町にとって望ましい持続可能な公共交通網を形成するため、地域公共交通の基本計画として策定します。



１－３　計画の区域

計画の区域は、会津美里町全域とします。

なお、本町には、隣接する会津若松市と会津坂下町を繋ぐＪＲ只見線や、会津若松市に跨る広域路線バスが３路線５系統運行しており、本計画の策定にとどまらず、広域バス路線の課題やあり方等について継続的な協議を行います。

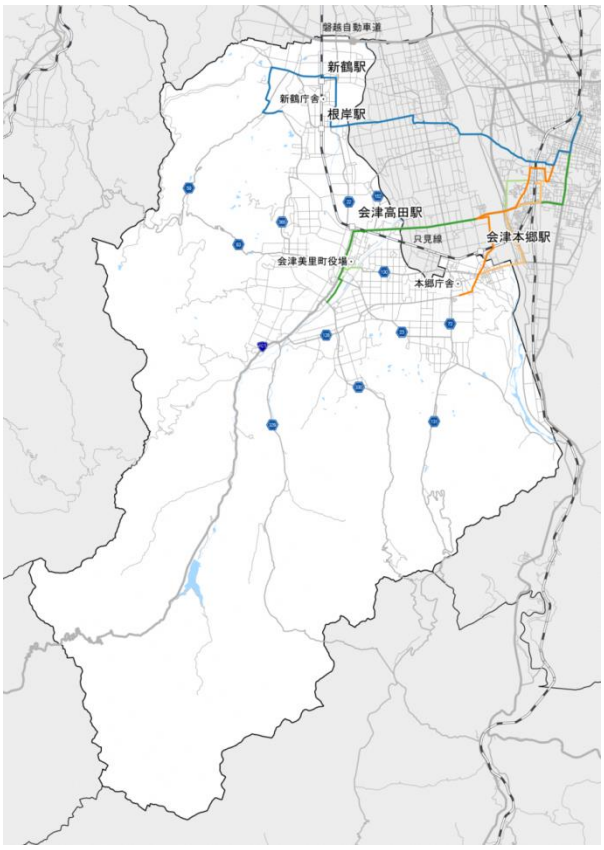


図　対象区域

１－４　計画の期間

計画の期間は、平成３１年度から平成３７年度までの７年間とします。

計画の期間

	Ｈ３１	Ｈ３２	Ｈ３３	Ｈ３４	Ｈ３５	Ｈ３６	Ｈ３７	Ｈ３８以降
上位計画	会津美里町第3次総合計画　基本構想（H28～H37）							中間報告
	会津美里町都市計画マスタープラン（H29～H48）							
関連計画	会津美里町地域公共交通網形成計画（H31～H37）							
	基本的な方針と目標（20年後の展望）							
	具体的施策（7年間で実施できる施策のみ記載）							
		会津美里町地域公共交通再編実施計画（H32～H37予定）						

２．上位･関連計画におけるまちづくりの方向性

２－１　町が目指す将来像の整理

本町の最上位計画である「会津美里町第３次総合計画」及び都市計画の上位計画である「会津美里町都市計画マスタープラン」において、町が目指す将来像を公共交通の分野から実現するため、上位計画で掲げる町の将来像との整合性を図ります。

計画	上位計画で掲げる将来像
会津美里町第３次総合計画 （平成２８年３月）	**■計画の概要** ･計画期間は平成28年度からの10年間としている。 **■まちの将来像** ･総合計画では将来像『**まるごと　いいね！　会津美里～人咲き　花咲き　文化輝く　希望あふれる未来へ～**』の実現に向けたまちづくりを目指している。 **■地域公共交通網形成計画を策定する上で特に関連する記述** ･「政策1：自然に配慮した環境づくり」における施策「③交通体系の充実」で位置付けられ、主な取り組みとして「利用者のニーズに合わせた公共交通体系を関係機関と連携し検討するとともに、公共交通事業者を支援し、PR等を通じて公共交通の利用促進を図ります。」と記載している。
会津美里町都市計画マスタープラン （平成２９年６月）	**■計画の概要** ･町の総合的な施策展開の指針である「会津美里町第3次総合計画」に即して、長期的な視点に立ち、まちの将来像や土地利用･都市施設等の整備方針を明らかにし、まちづくりのガイドラインの役割を持ち、計画期間は概ね20年後の平成48年としている。 **■将来都市像と将来都市構造** ･3つの中心拠点と各集落という明確な都市構造が形づくられていることから、この構造を維持し、それぞれの中心拠点、集落における公共施設や道路･公園等を適切に維持し、生活環境を向上させることで、それぞれの地域での快適な暮らしを維持するとともに、中心拠点や集落をとりかこむ農地、里山、山林を適切に保全することが重要になります。 **■地域公共交通網形成計画を策定する上で特に関連する記述（施策）** ･高田地域、本郷地域、新鶴地域の3地域の分散型の都市構造を維持し、既存市街地である各拠点の機能集積を高めるとともに、各拠点、集落を結ぶネットワーク機能を向上させることを目指している。 ･会津美里町の3地域に「中心拠点」「工業拠点」「歴史観光拠点」「スポーツレクリエーション拠点」の4拠点を設け、3地域の日常生活を支える中心的機能の強化を図る。更に、「広域交通軸」「拠点連携軸」「地域連携軸」「都市軸」「河川軸」の5つの軸を設定し、隣接する市町村への移動、拠点間の移動、中心市街地と山間部の移動を支えるネットワークの構築を目指している。 ･公共交通の整備方針では、事業者との連携を図り利用者ニーズに対応したJR只見線、路線バス、美里あいあいタクシーの利便性の向上を目指す。併せて、駅周辺の待合環境の整備を図り交通結節点の機能強化を掲げている。

２－２ 公共交通に求められる役割の整理

上位計画や関連計画では、公共交通に求められる役割を明らかにするとともに、公共交通に関連する施策を展開していることから、公共交通のマスタープランとなる本計画においてはこれらの計画との連携を図ります。

公共交通に求められる役割（1／3）

計　画	視点①：各計画の実現に向けて公共交通に期待される役割	視点②：各計画で位置付けられた公共交通に関連する施策
会津美里町第３次総合計画	【政策1「自然に配慮した環境づくり」】の実現 施策 1-3「交通体系の充実」 利用者のニーズに合わせた公共交通体系を関係機関と連携し検討するとともに、公共交通事業者を支援し、PR等を通じて公共交通の利用促進を図る。	【注目数値】 ※目標数値詳細は下記の通り。 ①町内の道路での移動に不便を感じている町民の割合：29．7%（現状値）→27．0%（H32年度目標値） ②公共交通での移動に日常的に不便を感じる町民の割合：13．3%（現状値）→11．8%（H32年度目標値）
会津美里町都市計画マスタープラン	【安心して住み続けられるまちづくり】 ①市街地や集落における生活環境の維持、向上を図り、快適で安全安心な暮らしを守ることで、住み続けられる環境づくりを進める。 ②良好な住宅地や道路環境の整備、保健・医療・福祉拠点の機能強化を図るとともに、災害に強いまちづくりを進める。	【生活を支える公共交通の確保】 ①JR只見線の利便性の確保：運行本数の現状維持と、観光イベント等と連携した取り組みを検討する。また、民間事業者との連携を図り、駅周辺の環境整備を図る。 ②バス及び美里あいあいタクシーの利便性の確保：事業者との連携を図り、きめ細かな運行の継続、バス停の利用環境の整備を検討する。美里あいあいタクシーは、利用者ニーズに対応した利便性向上のための取り組みを検討する。 ③既存の鉄道、バス路線を補完する移動手段の確保：中心拠点と集落を結ぶ交通ネットワーク構築について、民間事業者と連携したデマンド交通や、介護タクシー等、個別のニーズに対応した交通手段の導入を検討する。 ④交通結節点の機能強化：交通連携拠点と市街地エリアの機能強化を図るため、駅や市街地に近接した場所への駐車場や駐輪場の整備を図る。

公共交通に求められる役割（2／3）

計　画	視点①：公共交通に期待される役割	視点②：公共交通に関連する施策
会津美里町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略	【時代に合った安心安全な地域をつくる】 ①災害から住民を守るため地域の防災力の向上と、地域に即した公共交通体系の形成、空き家などの対策を適切に行うことにより、安心して暮らせる地域をつくる。 ②地域の住民と行政が一体となり、子どもから高齢者まで、「わがまち」として、誇りを持って暮らすことができるまちづくりを推進する。	【地域に即した公共交通体系の確立】 ①デマンド交通システム運行事業：高齢者等のための地域交通の確保と商店街の活性化を図るため、デマンド交通（乗合型タクシー）の運行を行っているが、近年、利用者が減少傾向にあるため、利用者のニーズを的確に把握し、効率的で効果的な運行方法による交通体系を確立する。 【KPI（評価指数）】 ①デマンド交通システム利用者数（年間延べ人数）23，254人（H26年度基準値）→22，000人（H31年度目標値） 【KPIとした理由】 運転免許保有年齢の上昇により、デマンド交通を必要とする実人数が減少している。その中で、利便性の向上が利用者数の維持につながるため。
会津美里町観光振興計画	【二次交通網の拡充】 自家用車や公共交通の二次交通網を確保し、点在する観光スポットをつなぎ、町内の周遊を支援する。	①イベント会場と主要スポット間を結ぶ臨時移動手段の提供（新規）：既存の主要イベントの開催時に、温泉施設等の主要スポットを連絡する臨時交通手段を提供し、イベント参加者の町内周遊を促す。 ②デマンドタクシーの観光利用の拡充（拡充）：1日乗車券の発売等、観光利用にも対応できる方策の検討を行い、観光利用の拡充を図る。
会津美里町観光振興計画アクションプラン	【DMO（観光プラットフォーム組織）の設立・展開】 DMOの設立・展開については、町全体を対象に、会津美里町の観光まちづくりに携わる全ての関係団体、組織、住民の連携により、取り組むものとする。	①町内で不足している二次交通の確保策として、デマンドタクシーの観光利用を検討し、町、交通事業者と調整しながら導入を目指す（⑦デマンドタクシーと連携した二次交通の導入）。
会津美里町第３期地域福祉計画	【安心して暮らせるまちづくり】 高齢者や障がいのある人が、移動できないことで日常生活に不便が生じないように、移動支援の充実や、地域での取組に対する支援を図る。	①地域で取り組む移動支援について、支援や情報提供等を行う。 ②町民が安心して生活を送れるよう、交通機関等の移動支援の充実に努める。

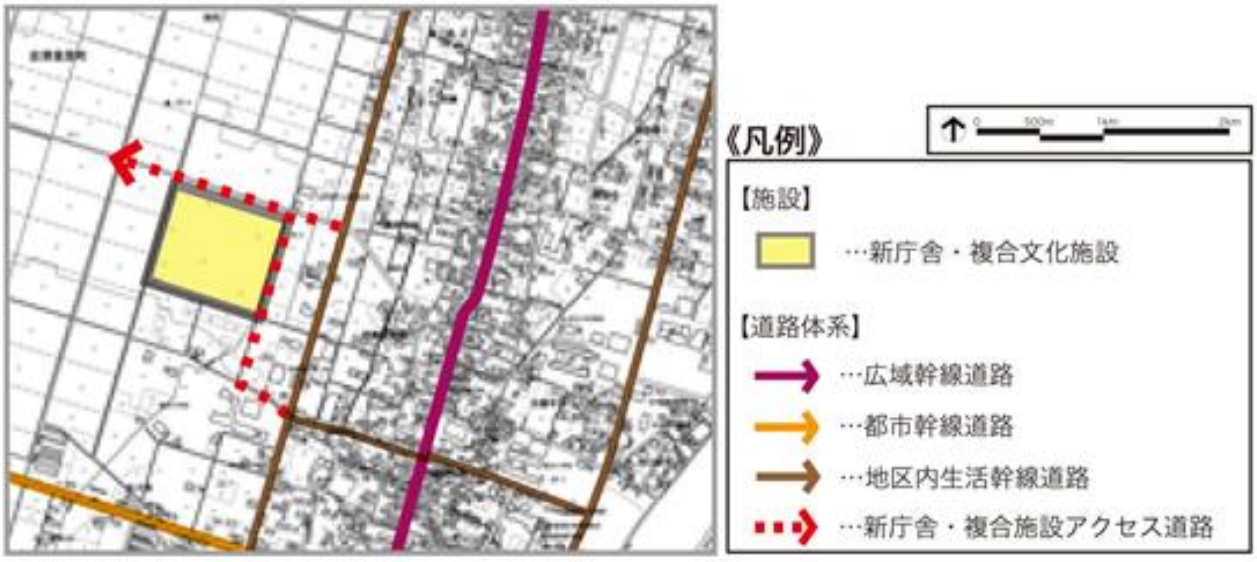
公共交通に求められる役割（3／3）

計　画	視点①：公共交通に期待される役割	視点②：公共交通に関連する施策
会津若松市地域公共交通網形成計画	【広域路線のサービス確保・維持戦略】 地域内及び広域の移動を持続的に確保していくために、市内公共交通網の再編を検討する。 【中心部におけるサービス向上戦略】 幹線区間の形成・強化、循環路線の再編・充実を通じて、中心部のサービス充実とネットワーク全体の活性化を図る。	①北会津地区におけるバスネットワーク再編 ・高田線、新鶴線、ピカリン号の一体的な見直し
只見線（会津川口～只見間）の鉄道復旧に関する基本合意書及び覚書	【利用促進】 福島県（福島県及び会津17市町村を代表）は、運休区間以外を含めた只見線全線の厳しい利用状況を理解し、持続可能な運営に向け、JR東日本とともに主体的に只見線の利用を促進する。	―
只見線利活用計画、アクションプログラム２０１８	①関係者間の連携を一層強化し、新潟県側の協力も得ながら、会津17市町村が一体となって取り組むとともに、様々な企画に住民、企業、団体等を積極的に巻き込み、オール会津で「地方創生路線」の実現を目指す。 ②インバウンドや団体旅行など新たな需要を掘り起こし、只見線の更なる利用者増加を図るため、情報の受け皿を整備し確実な情報を発信しながら、戦略的広報により国内外に只見線を強くPRする。	①目指せ海の五能線、山の只見線プロジェクト ・只見線活用による奥会津振興事業 ②奥会津景観整備プロジェクト ・元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業 ③只見線学習列車プロジェクト ・只見線活用による奥会津振興事業 ④奥会津サテライトキャンパス整備プロジェクト ・大学生などによる地域創生推進事業 ・只見線活用による奥会津振興事業 ⑤みんなの只見線プロジェクト ・地域コーディネーターの設置 ・駅前冬期イルミネーション事業 ⑥只見線産業育成プロジェクト ・只見線関連商品の開発 ・只見線活用による奥会津振興事業 ⑦只見線二次交通整備プロジェクト ・来て。乗って！あいづ二次交通強化支援事業 ⑧只見線魅力発信プロジェクト ・只見線プロモーション強化事業 ⑨只見線利活用プラットフォーム構築プロジェクト ・只見線利活用プロジェクト推進体制強化事業

２－３ 関連事業の整理

新庁舎及び複合文化施設「愛称：じげんプラザ」（以下、「じげんプラザ」という）は、平成３０年度中の完成を目指し、高田地域、本郷地域、新鶴地域間の距離のバランス、人口重心、現庁舎の利用状況と利便性、防災機能などの観点から、高田地域の新布才地地区に整備することが決定されました。じげんプラザは庁舎機能の他に複合文化施設として図書館、町民交流スペース、公民館機能を備えます。町ではじげんプラザ周辺の道路整備を行ない、安全な歩行者環境の確保を進めるとともに、新たな行政サービス拠点にふさわしい街路空間の整備を図ります。また、この整備に合わせ、長期未着手の都市計画道路について、まちづくりにおける必要性や交通需要、道路網における代替機能の有無などを踏まえ、見直し検討を行います。

《新庁舎周域道路計画図》



出典：会津美里町都市計画マスタープラン

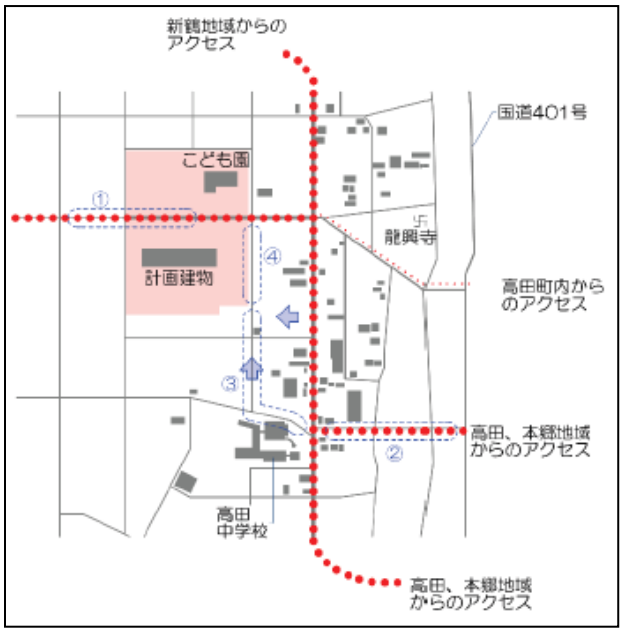


図　今後想定される道路整備

【今後想定される道路整備】

①町道１２００５　号線

認定こども園ひかり西側境界付近から舗装済の法定外道路までの道路整備を行う。(L＝260m、W=9.25m)

②町道１２００９　号線

本郷地域方面からのアクセス道路として町道12009号線(L＝300m)を片側歩道(W=9.25m)として整備検討する。

③町道１３０５８　号線

将来的には、町道11002　号線(通称1　号線)から高田中学校北側の町道13058　号線を経由し、建設計画地の南東境界付近に至る路線についても整備し、更なるアクセスの向上を図る。(L＝580m、W=9.25m)

④敷地内通路

敷地の土地利用計画に基づき、南東敷地内通路を整備し施設へのアクセス向上を図る。

出典：会津美里町庁舎及び複合文化施設建設基本計画・設計

２－４　上位･関連計画における公共交通の位置付け･役割

各計画の実現に向けて「公共交通に期待される役割」と「各計画で位置付けられた公共交通に関連する施策」の２つの視点から、公共交通に求められる役割を整理します。

総合計画におけるまちの将来像の実現に向けて、利用者のニーズを把握し、利用しやすい公共交通の運行が求められている

会津美里町第３次総合計画の主な取り組みとして、利用者ニーズに合わせた公共交通体系を関係機関と連携し検討するとともに、公共交通事業者を支援し、PR などを通じて公共交通の利用促進を図るほか、公共交通の果たすべき役割を明らかにするとともに、本町にとって望ましい持続可能な公共交通網を形成することが求められています。

都市計画マスタープランが目指す「高田地域、本郷地域、新鶴地域の３地域の分散型の都市構造を維持し、既存市街地である各拠点の機能集積を高め、各拠点、集落を結ぶネットワーク機能を向上させる」役割が公共交通に求められている

会津美里町都市計画マスタープランによると、町内３地域内に拠点及び軸を設け隣接する市町村への移動、拠点間及び中心市街地と山間部の移動を支えることを目指しています。

公共交通分野においても、拠点を整備するとともに多様な公共交通機関を組み合わせながら日常生活の移動を支えるネットワークづくりが求められています。

観光客が町内を周遊するための二次交通整備が求められている

観光客が町内に点在する観光資源を周遊する移動手段や、イベント時の臨時移動手段として観光二次交通の整備が期待されています。

隣接自治体（会津若松市･会津坂下町など）への広域移動の維持･確保が求められている

広域の移動を持続的に維持・確保するとともに、隣接自治体と連携し、一体的な公共交通ネットワークの構築が求められています。また、只見線の鉄道復旧に伴い、利用促進が求められています。

高齢者などの外出支援の充実に加え移動支援（福祉分野）との連携が求められている

高齢者が一人で自由に外出するために、公共交通の利便性向上が求められています。また、障がい者を始めとした、移動が困難な方については福祉分野と役割を分担し、一体的に移動と外出を支援することが求められています。

じげんプラザの開所に伴う移動手段の確保

平成３１年度に開所するじげんプラザは、行政サービスをはじめとし、図書館や町民交流スペースなど、子どもから高齢者まで利用される拠点です。この拠点整備に伴い、道路網の整備などが関連して実施されます。そのため、公共交通においても、じげんプラザへの移動手段の確保・維持が求められています。

３．地域の現状

３－１　会津美里町の概況

（１）位置

本町は、福島県の西半分を占める会津地域のほぼ中央に位置し、総面積は２７６.３３k㎡（※一部境界未定のため概算数値）で、東は会津若松市、西は柳津町、北は会津坂下町、南は下郷町及び昭和村と接しています。県都福島市まで約６０km、郡山市まで約５０km、の距離にあります。北部を東西に磐越自動車道が走り、町内に新鶴スマートインターチェンジが設けられています。広域一般道路としては、国道４０１号が東に隣接する会津若松市から町域を南西に走り南の昭和村へと抜けています。鉄道は、ＪＲ只見線が町域の北東部を走り、会津本郷駅、会津高田駅、根岸駅、新鶴駅の４駅が設けられています。

地形は、北部に広がる平野部と南部を覆う山間地からなり、肥沃な土壌の平野部は主に水田として利用されています。気候は、内陸型特有の複雑な気候を示し、冬期は日本海式の気候のため好天が少なく、夏期は蒸し暑く、春秋には日中と夜間の気温差が大きい盆地特有の気象条件にあります。

（２）地勢

本町は、平成１７年１０月１日に旧会津高田町、会津本郷町、新鶴村が合併して誕生しました。

本町には複数の遺跡があり、約１万年前の石器が出土するなど、古くから人々が住んでいたことが分かっています。

旧３町村はそれぞれが古くからの歴史や文化を持っており、旧会津高田町は、かつて大沼郡政の中心地であり、商業中心地としての役割を担っていました。

旧会津本郷町は向羽黒山城の城下町として開けた町であり、主要地場産業である会津本郷焼は、現在も町の重要な産業の一つとなっています。

旧新鶴村には、鎌倉時代の創建と伝えられる弘安寺などがあり、仏教文化の一拠点として栄えてきました。

また、町内を流れる河川の豊富な水量と、肥沃な平野部を活かした米の生産、水はけのよい丘陵部を活かしたおたね人参の栽培、その後作として発展してきたぶどうなどの果樹栽培など、自然環境を最大限に活かした農業が展開されてきました。

３－２ 人口

（１）人口推移

総人口は昭和５５年から減少し続け、平成27年までに7,０００人減となっており、減少率は２５％となっています。将来推計人口は、平成５２年の１１,０９０人程度まで減少すると予想されます。

老年人口は、昭和５５年から平成２７年までに約3,０００人増加し、高齢化率の推移は２倍以上になっています。将来的には、老年人口も減少に転じると予想されます。

生産年齢人口は、昭和５５年から平成２７年までに約7,０００人減少し、平成２７年の生産年齢人口の割合は、５４％を占めています。将来推計人口は、5,０００人を割り込み、4,８６９人程度まで減少すると予想されます。

年少人口は、昭和５５年から平成２７年までに約3,０００人減少し、年少人口は約１１％を占めています。将来推計人口は、１,０００人を割り込み、９５１人程度まで減少すると予想されます。

なお、平成２９年３月末時点における地域別人口数は、高田地域が５７％と全体の半分以上を占めており、次いで本郷地域が２７％、新鶴地域が１６％となっています。

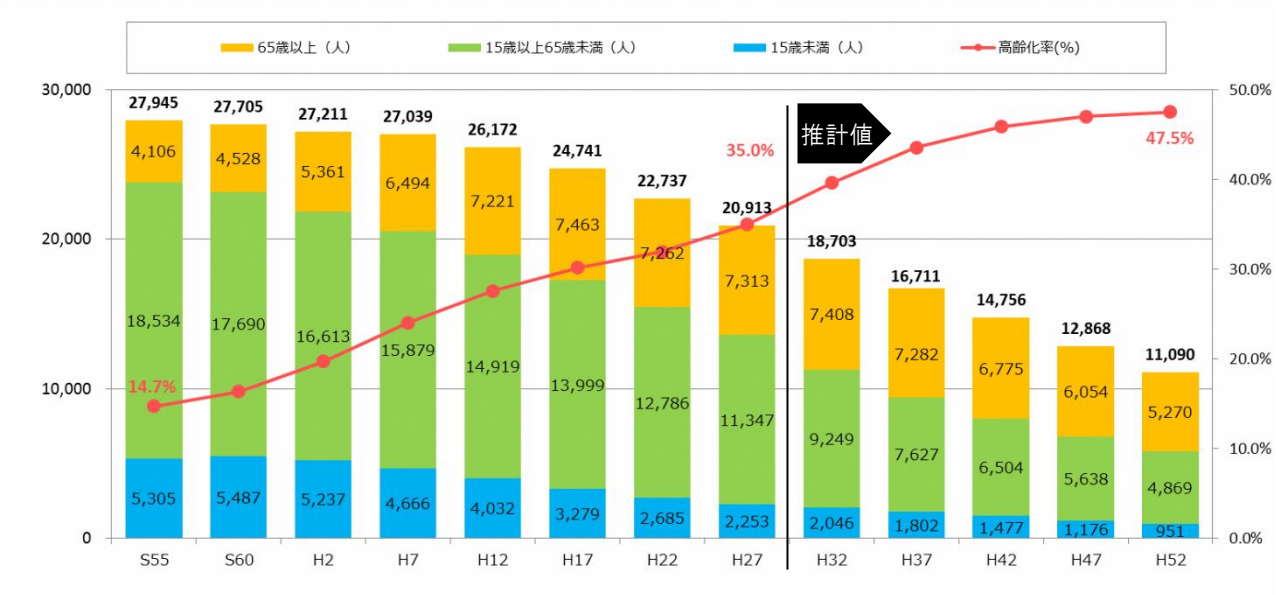


図　人口の推移（年齢3区分別）

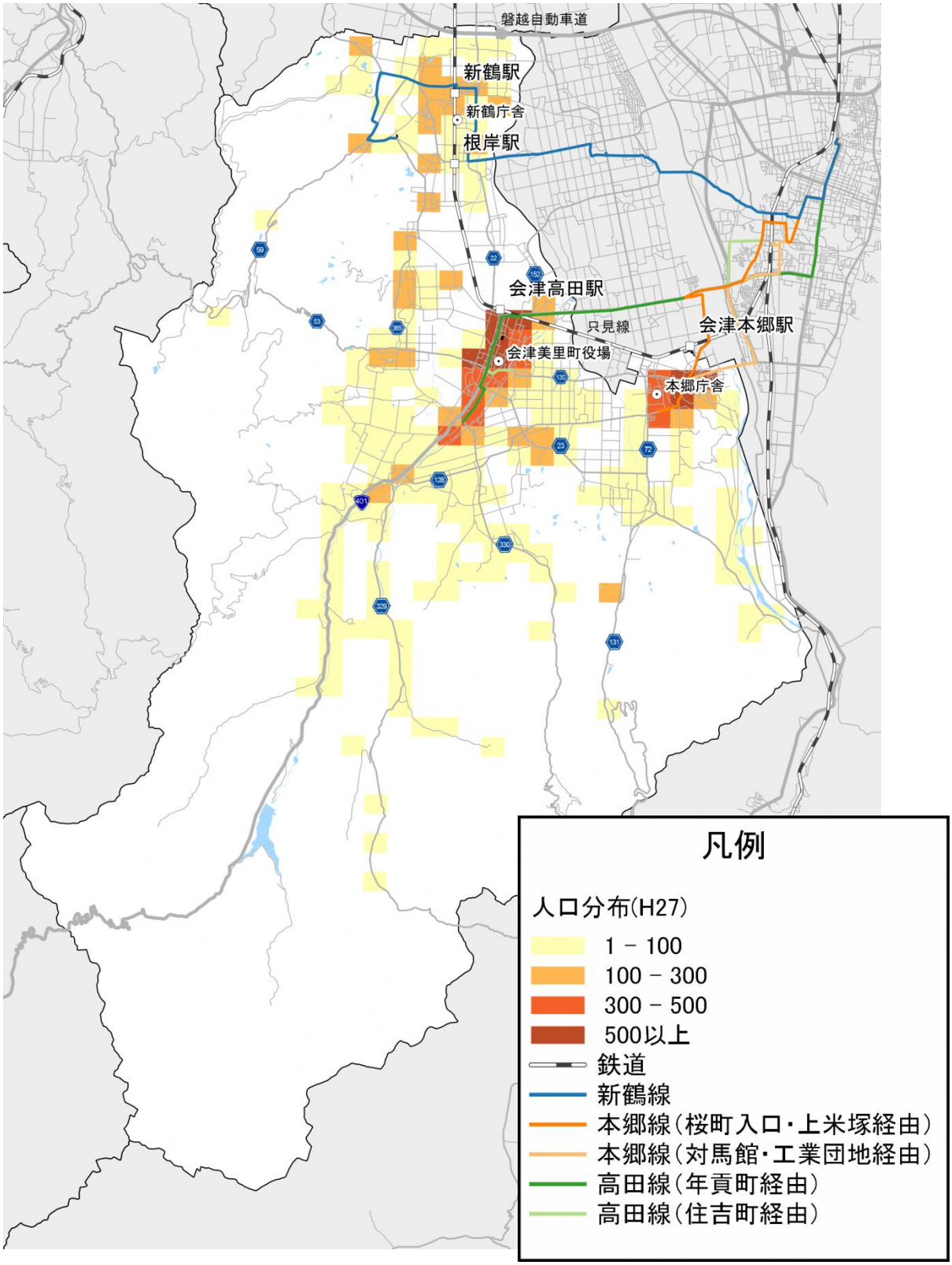
表　地域別人口数（平成29年3月末時点）

地区	人口（人）	割合（%）
高田地域	11,953	57%
本郷地域	5,565	27%
新鶴地域	3,434	16%
町全体	20,952	

（２）人口分布

高田地域、本郷地域の人口分布では各庁舎周辺に高い集積がみられるが、新鶴地域は人口分布が分散しています。

国道や主要地方道に沿って集積が見られ、特に国道４０１号線に人口が集中しています。

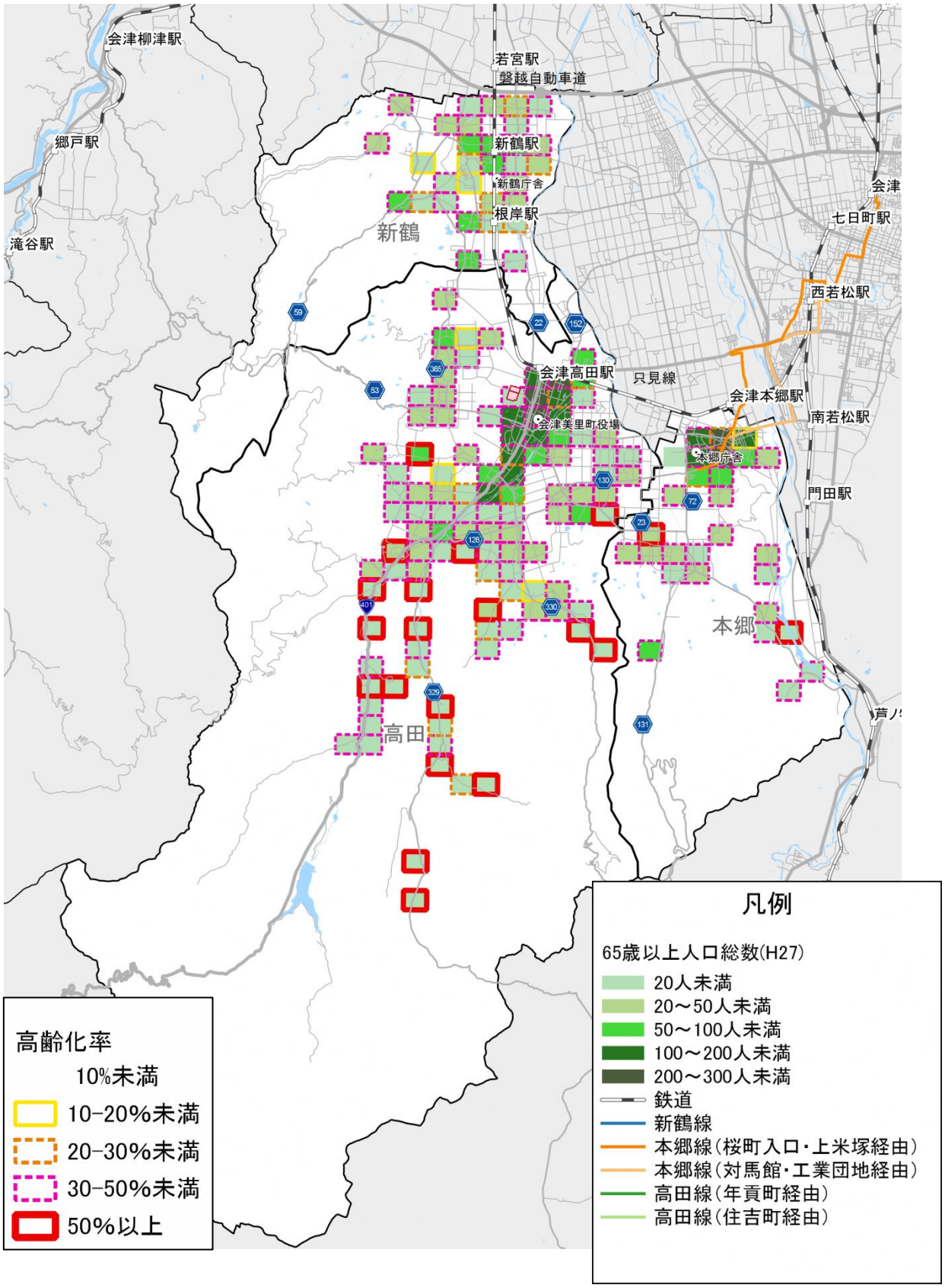


出典：国勢調査

（３）高齢者の人口分布

町内の６５歳以上の人口の分布をみてみると、３地域の中心部に多く集まっています。

また、平成２２年から平成２７年にかけての高齢化率では、山間部で４０%以上の分布が見られ、中心部から離れ山間部に近づくにつれ、高齢者の割合が増加しています。



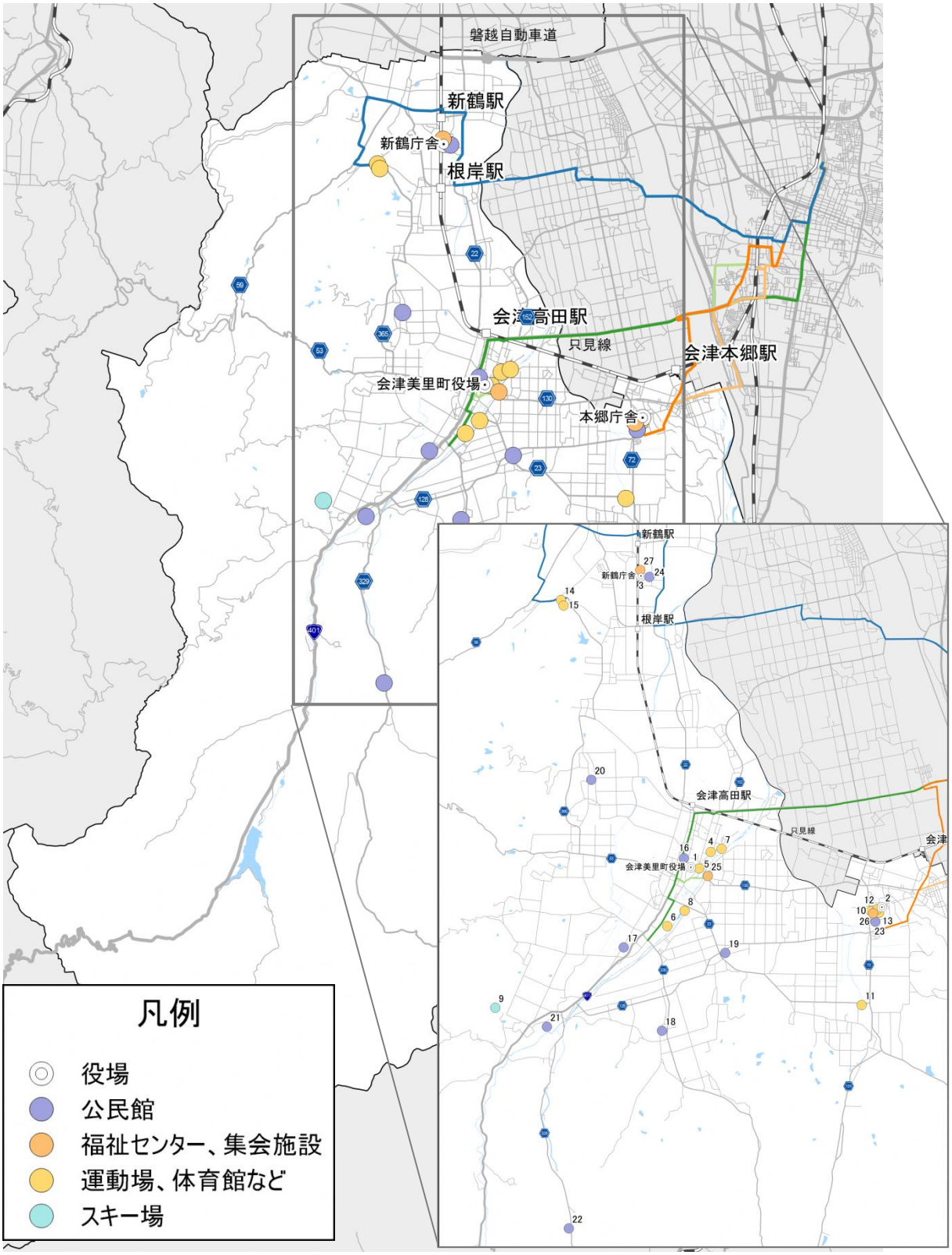
出典：国勢調査

３－３　生活利便施設などの分布

（１）公共施設

行政機能は３地域の駅から比較的近い場所にあり、行政機能を中心に公共施設が広がる配置になっています。

公民館、運動場、福祉センターは３地域それぞれの地域にあります。

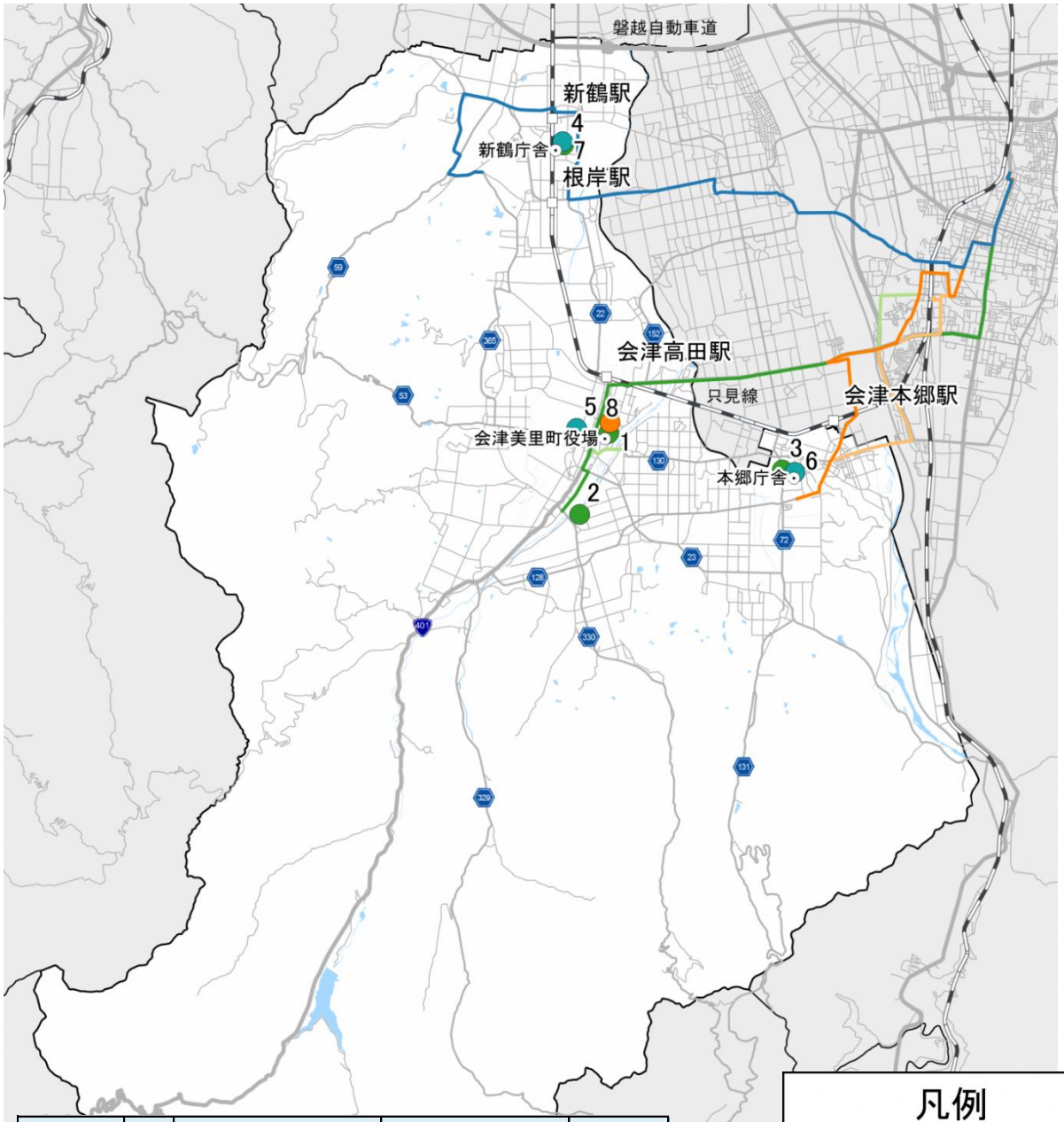


No.	名称
1	会津美里町役場高田庁舎
2	会津美里町役場本郷庁舎
3	会津美里町役場新鶴庁舎
4	高田体育館
5	二本柳運動場
6	宮川庭球場
7	宮川運動場
8	河畔公園庭球場
9	町営小山スキー場
10	本郷体育館
11	本郷第二体育館
12	本郷運動場
13	本郷テニスコート
14	新鶴体育館
15	吹上総合運動場

No.	名称
16	会津美里町公民館
17	永井野地区公民館
18	旭地区公民館
19	藤川地区公民館
20	赤沢地区公民館
21	尾岐地区公民館
22	東尾岐地区公民館
23	本郷公民館
24	新鶴公民館
25	会津美里町保健センター
26	本郷老人福祉センター
27	新鶴高齢者福祉センター

（２）教育施設

町内の教育施設は８施設（小学校：４、中学校：３、高校：１）あります。小学校、中学校は３地域にありますが、高校は高田地域のみであり、近隣の会津若松市には８校、会津坂下町には２校あることからＪＲ只見線や路線バスなどを利用し、町外へ通学していると考えられます。



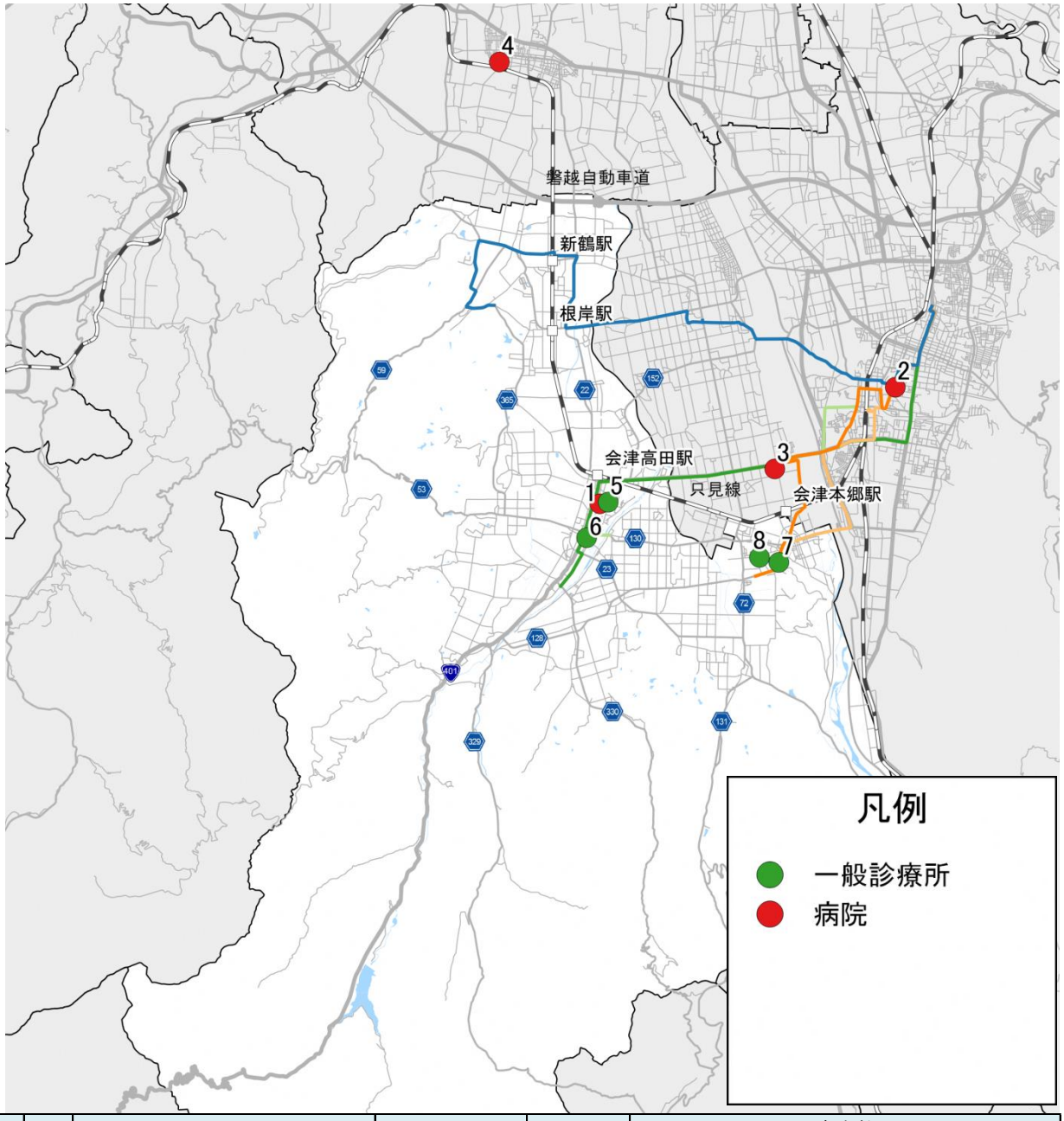
種類	No.	学校名	学科	学生数
小学校	1	高田小学校	－	256名
	2	宮川小学校	－	176名
	3	本郷小学校	－	247名
	4	新鶴小学校	－	192名
中学校	5	高田中学校	－	254名
	6	本郷中学校	－	156名
	7	新鶴中学校	－	88名
高等学校	8	県立大沼高等学校	普通科(全日制)	287名

平成30年5月1日現在

出典：（小学校・中学校）会津美里町 HP、会津美里町教育委員会
（高など学校）福島県教育庁高校教育課 HP
町提供資料

（３）医療施設

町内の医療施設は５施設（病院：１、一般診療所：４）あり、高田地域に３施設、本郷地域に２施設あるが、新鶴地域には医療施設がないことから、町内又は近隣の会津若松市、会津坂下町の医療施設を利用していると考えられます。

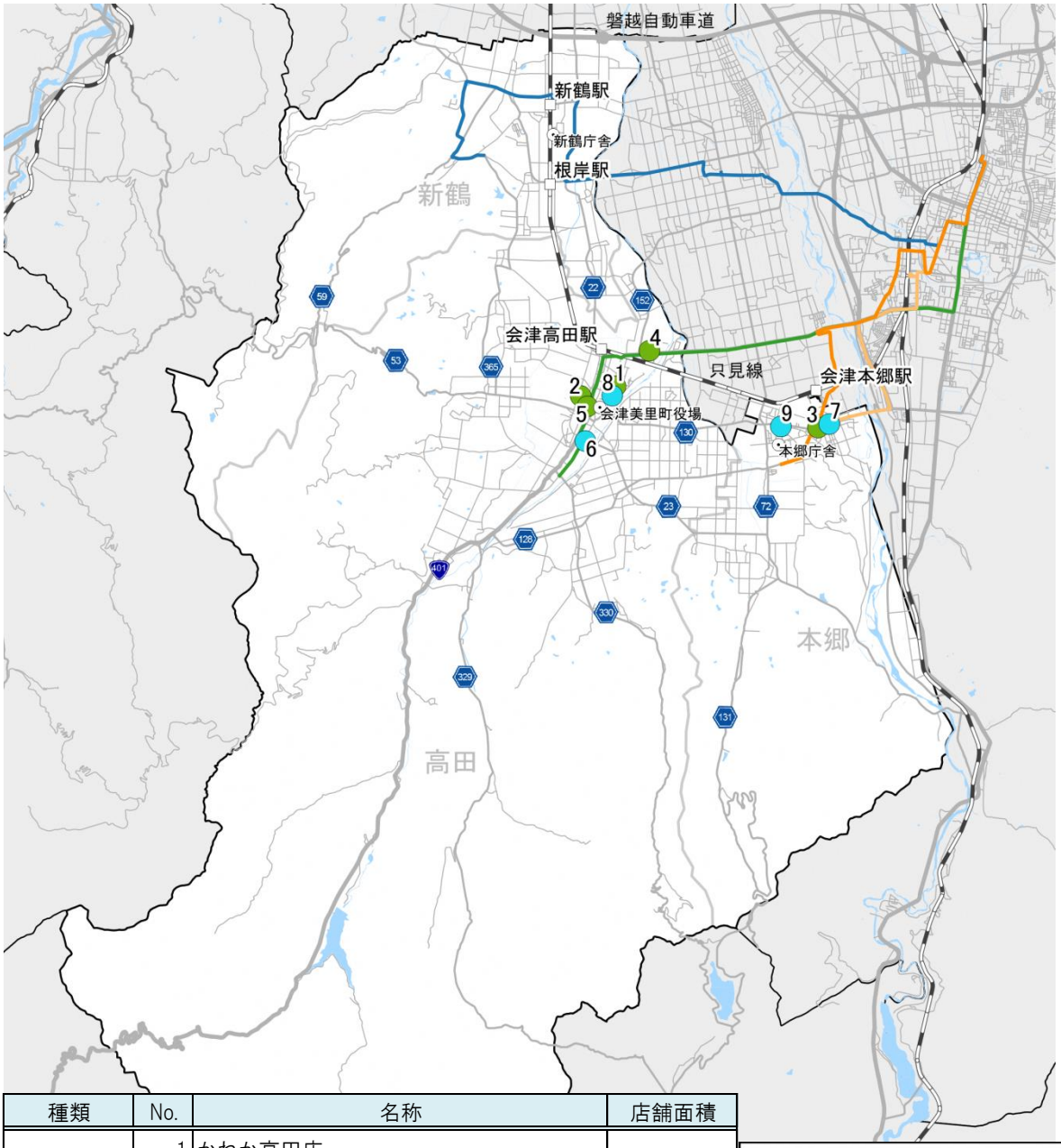


種類	No.	名称	市町村	内科診療	病床数				
					計	一般	精神	感染症	療養
病院	1	高田厚生病院	会津美里町	●	199	58	91	0	50
	2	竹田綜合病院	会津若松市	●	837	693	144	0	0
	3	会津西病院	会津若松市	●	378	68	310	0	0
	4	坂下厚生総合病院	会津坂下町	●	177	177	0	0	0
一般診療所	5	こばやしファミリークリニック	会津美里町	●	0	0	0	0	0
	6	白井内科クリニック	会津美里町	●	0	0	0	0	0
	7	吉川医院	会津美里町	●	0	0	0	0	0
	8	もこぬま内科消化器科医院	会津美里町	●	0	0	0	0	0

平成30年6月1日現在　　出典：地域医療情報システム（日本医師会）

（４）商業施設

町内の商業施設は９施設（スーパー：５、コンビニエンスストア：４）あり、高田地域・本郷地域に立地しており、新鶴地域には商業施設がありません。



種類	No.	名称	店舗面積
スーパー	1	かねか高田店	－
	2	リオン･ドール高田店	－
	3	ブイチェーン本郷バイパス店	－
	4	リオン･ドール美里店	－
	5	スーパーマルタ	－
コンビニ	6	セブン-イレブン会津高田店	－
	7	セブン-イレブン会津本郷店	－
	8	ローソン会津高田鹿島店	－
	9	ハローショップ･バンナイ	－

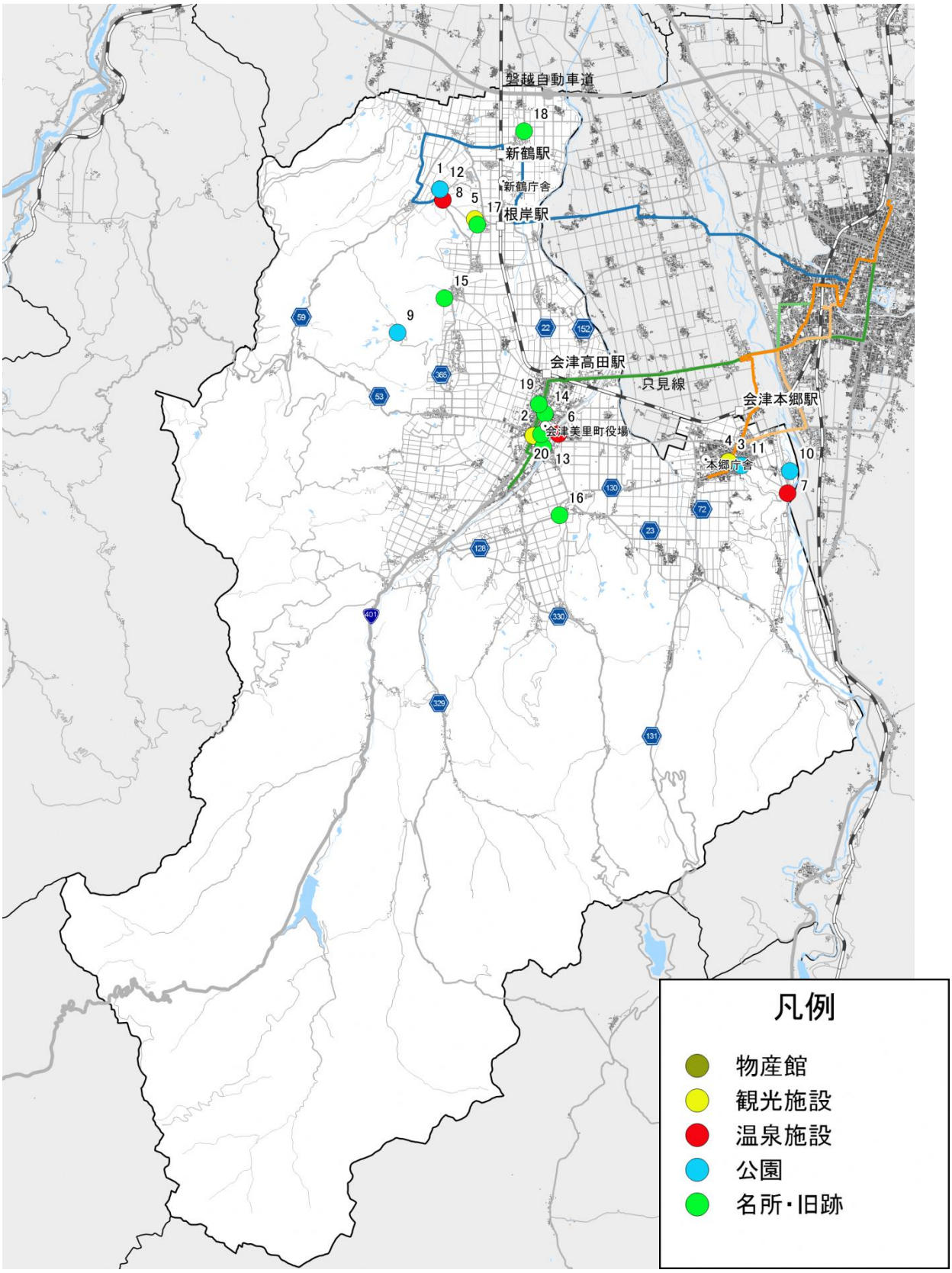
凡例
- スーパー
- コンビニ

※平成30年6月1日現在

出典：（スーパー）（コンビニエンスストア）：ｉタウンページ、各店舗 HP

（５）観光資源

町内には、指定文化財などの歴史資源が多くあります。また、温泉施設や観光案内所など地域外の観光客に対するサービス提供施設は揃っており、周辺には鶴ヶ城や大内宿など観光客が多く訪れる資源にも恵まれています。



	No.	名称	概要
物産館	1	会津美里町ふるさと観光物産館	食事・休憩スペースと、会津地方の特産品の販売。
観光施設案内所	2	高田インフォメーションセンター	町の観光情報を発信するインフォメーションセンターと、特産品を販売するテナントを併設した商業集積施設。定期的な企画展やイベントを開催している。
	3	本郷インフォメーションセンター	町や会津周辺地域の観光案内施設。また、2階には、やきものの歴史と文化を学ぶ会津本郷焼資料展示室もあり、無料で見学できる。
	4	会津本郷陶磁器会館	会津本郷焼事業協同組合による、会津本郷焼の共販所。組合に所属する窯元13カ所の作品を展示・販売している。
資料館	5	新鶴民俗資料館	旧新鶴村内に残されてきた民俗文化財、およそ1,500点余りが展示されている。
温泉施設	6	高田温泉あやめの湯	大浴場、個室、休憩室、食堂（午前9時～午後9時まで営業）
	7	本郷温泉湯陶里	ラウンジ、大広間、個室、大浴場、露天風呂、サウナ、食堂、足湯 （午前9時～午後9時まで営業）
	8	新鶴温泉健康センター	宿泊所「新鶴温泉　ほっとぴあ新鶴」併設。大浴場、物産館、レストラン、大宴会場、客室（午前8時～午後9時30分まで営業）
公園	9	蓋沼森林公園	福島県指定天然記念物である蓋沼の浮島やモリアオガエルが存在し、会津美里町の豊かな自然を堪能できる施設。駐車場が整備され宿泊も可能。 （4月～11月まで開園）
	10	せせらぎ公園	オートキャンプ場で、グランドゴルフ場や遊具を備えた子供広場などがある。 手ぶらでキャンプやバーベキューをグループや家族で楽しめる。 （4月～11月まで開園）
	11	白鳳山公園	向羽黒山城跡として町内唯一の「国指定史跡」として指定をうけている公園。大川の清流と会津平野、彼方に磐梯山や飯豊山を望む絶景の地となっており、遊歩道、自動車道が整備されている。
	12	ふれあいの森公園	アウトドア、スポーツの総合施設。アウトドア施設は宿泊できるバンガローやテントサイト、屋根付きバーベキュー施設があり、スポーツ施設は夜間照明が完備されたテニスコートや、野球場、400mトラックの陸上競技場や体育館など、施設が充実している。
名所・旧跡	13	伊佐須美神社	岩代の国一ノ宮・会津総鎮守として信仰を集める神社。朱漆金銅装神輿が国指定重要文化財に指定されている。また、園内には「あやめ苑」があり、毎年「あやめ祭り」が行われる。
	14	法幢寺	明応3年（1494）、玉誉上人の開創の寺院。銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像が国指定重要文化財に指定されている。
	15	法用寺	会津で最古級の寺院。木造金剛力士立像は国の重要文化財として指定されており、三重塔が県指定重要文化財に指定されている。
	16	福生寺	会津三十三観音霊場の第二十六番札所としても広く信仰を広めてきた寺院。観音堂が国指定重要文化財に指定されている。
	17	弘安寺	「中田の観音様」として多くの人々の信仰を集めている寺院。 十一面観音及び脇侍立像、不動明王、地蔵菩薩立像が国指定重要文化財に指定されている。
	18	常福院田子薬師堂	唐様建築の特色が現れる堂は、貴重な建造物として、国の重要文化財に指定されている。
	19	龍興寺	福島県内で 3 つしかない国宝のひとつを所蔵しており、境内には会津三十三観音番外札所の浮身観音が祀られている。
	20	文殊院清龍寺	文殊院清龍寺文殊堂に祀られた文殊菩薩。毎年 2月25日、1 年に 1 度だけ御開帳にあわせ「文殊大祭」が開催され、県内外から学問成就や技芸上達を願う人たちが訪れる。

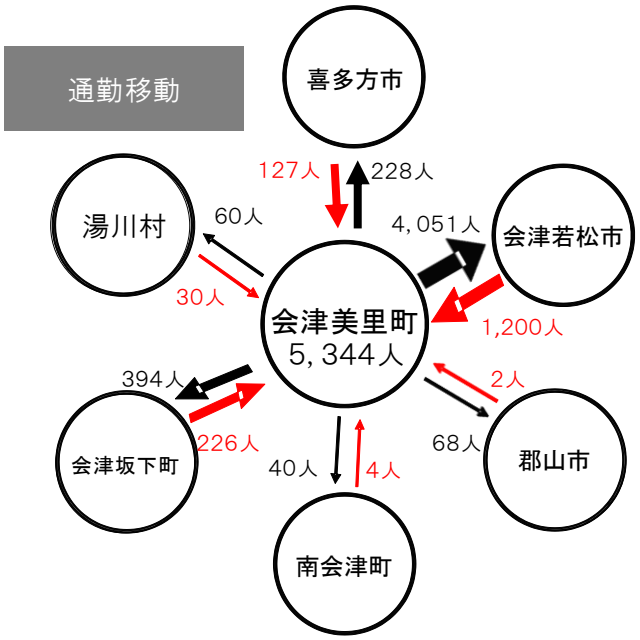
資料：会津美里町 HP、観光マップ、Misatono（会津美里町観光協会）

３－４ 町民の移動実態

（１）通勤･通学

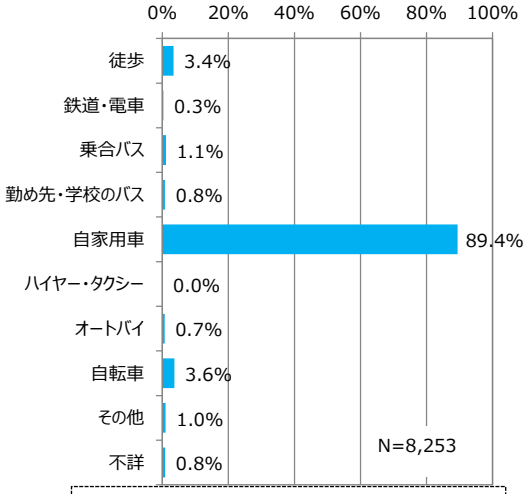
町民全体の通勤者については、５割が町内に通勤しています。一方で、会津若松市をはじめとした周辺市町村への移動も５割となっています。また、その移動手段は「自家用車」が約９割を占めています。

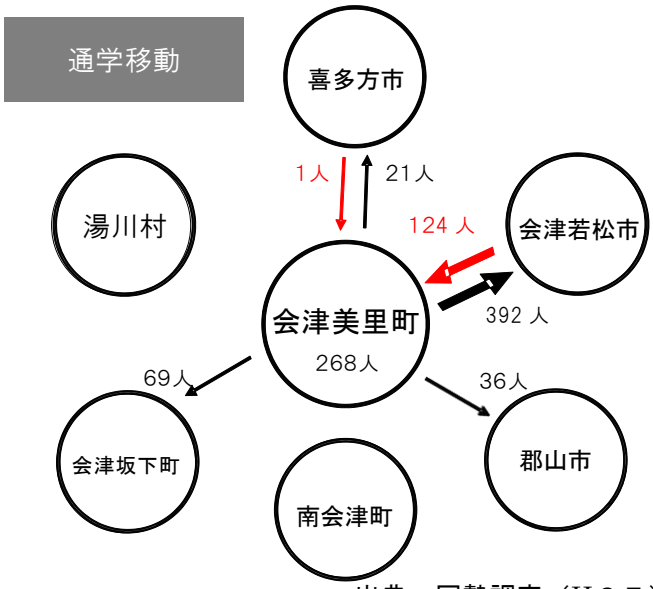
町民全体の通学者については、３割が町内に通学しています。一方で、会津若松市をはじめとした周辺市町村への移動も７割となっています。



出典：国勢調査（Ｈ２７）

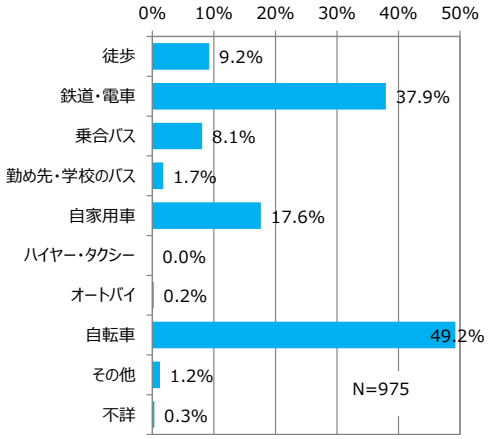
【通勤】
本町に常住する通勤者　:10,592人
うち会津美里町の通勤者: 5,344人
他市町村への通勤者　: 5,213人
通勤先「不詳」　: 35人





出典：国勢調査（Ｈ２７）

【通学】
本町に常住する通学者　:847人
うち会津美里町の通学者:268人
他市町村への通学者　:576人
通学先「不詳」　: 3人



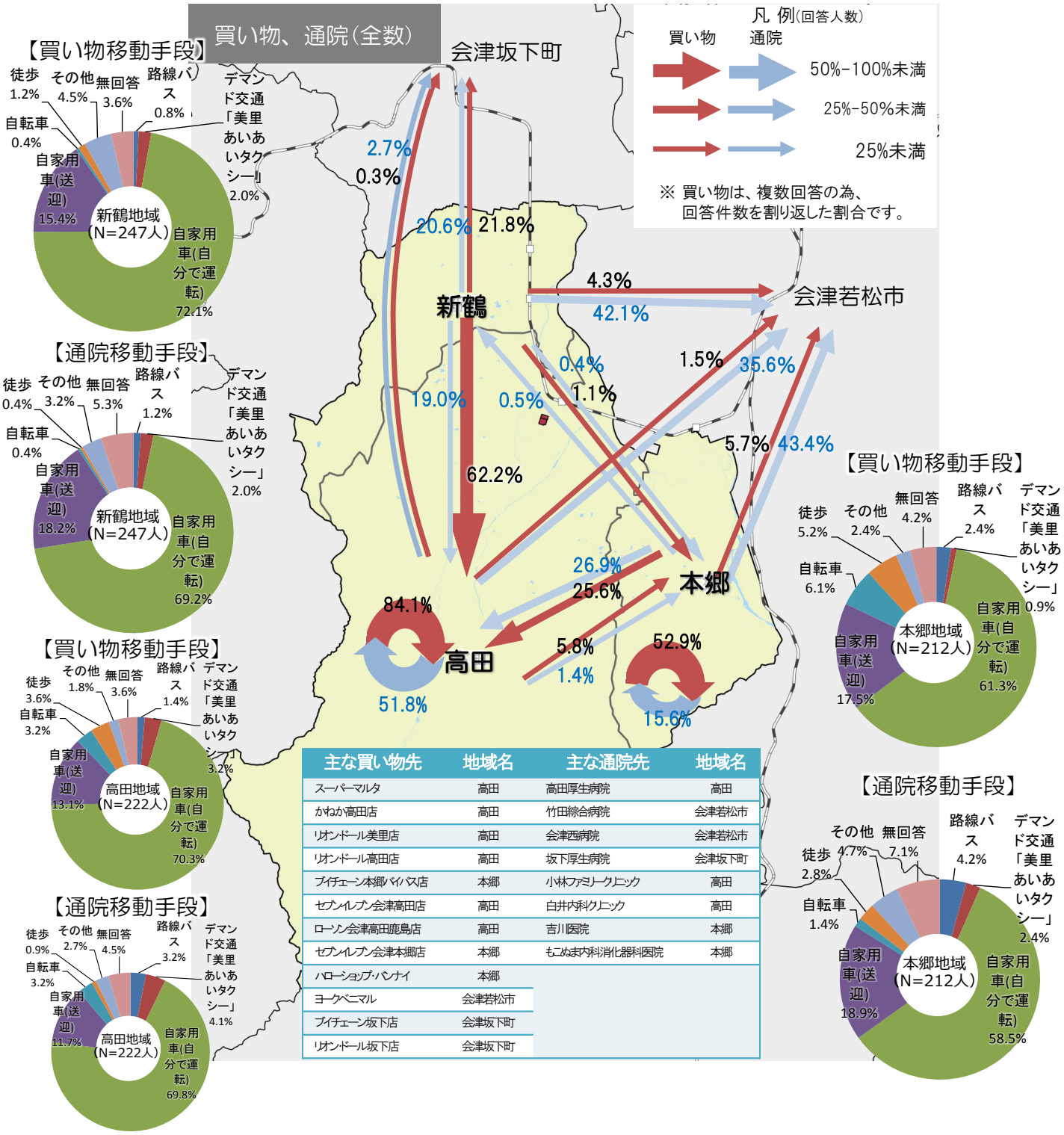
出典：国勢調査（Ｈ２２）

	100人未満	100人～500人	500人以上
本町から他市町村への移動	↖	↖	↖
他市町村から本町への移動	↘	↘	↘

（２）買い物・通院

町民全体の買い物については、地域内へ自家用車などを利用し移動する割合は高田地域では８割以上、本郷地域では、５割以上を占めています。一方、新鶴地域は、高田地域へ主に自家用車を利用し移動する割合が６割を占め、隣接する会津坂下町は２割となっております。また、３地域ともに会津若松市へ移動している割合は１割未満となっております。

町民全体の通院については、地域内の医療施設へ自家用車などを利用し通院している割合が最も高い地域は高田地域で５割以上を占めています。一方、本郷地域及び新鶴地域は、会津若松市の医療施設に自家用車などを利用し移動する割合は４割以上を占めています。



主な買い物先	地域名	主な通院先	地域名
スーパーマルタ	高田	高田厚生病院	高田
かねか高田店	高田	竹田綜合病院	会津若松市
リオンドール美里店	高田	会津西病院	会津若松市
リオンドール高田店	高田	坂下厚生病院	会津坂下町
ブイチェーン本郷バイパス店	本郷	小林ファミリークリニック	高田
セブンイレブン会津高田店	高田	白井内科クリニック	高田
ローソン会津高田鹿島店	高田	吉川医院	本郷
セブンイレブン会津本郷店	本郷	もこぬま内科消化器科医院	本郷
ハローショップ・バンナイ	本郷		
ヨークベニマル	会津若松市		
ブイチェーン坂下店	会津坂下町		
リオンドール坂下店	会津坂下町		

３－５　地域の現状にみる問題点

前項までの各種データの整理を踏まえ、会津美里町における地域特性からみた公共交通の問題点を整理します。

人口減少に伴い、公共交通の確保・維持が難しくなる

人口は減少しつづけ、平成５２年には現在の約半分になると推計されます。高齢化率は高まり、総人口の半分を高齢者が占める時代の到来が予想されるものの、高齢者人口は今後減少に転じます。その結果、公共交通の主な利用者である高齢者・通学者・通勤者などが減少し、また、生産年齢人口の減少に伴い町財政が厳しくなり、公共交通の確保・維持が難しくなってきます。

進行する高齢化に伴って、交通弱者の移動手段としての公共交通の役割は高まる

高齢化率は年々増加する予測になっており、自分で移動する手段がない交通弱者（高齢者、障がい者など）の移動手段として、今後ますます公共交通に求められる役割は高まってきます。

観光資源を結ぶ公共交通の確保が求められている

町内では、観光資源が多く、年間を通して様々な体験事業やイベントが開催されます。また、周辺地域には観光客が訪れる名所もあり、これらの観光資源は、駅及び路線バスの運行ルートから離れて点在して分布しています。これらの観光資源を結ぶ公共交通の確保が求められています。

日常生活における、隣接自治体（会津若松市・会津坂下町など）への円滑な広域移動が求められている

日常生活での移動は、町内のみならず、買い物や通院のため、会津若松市及び会津坂下町へ移動しています。また、通学においては国勢調査によると５割が会津若松市をはじめとして町外へ移動しています。

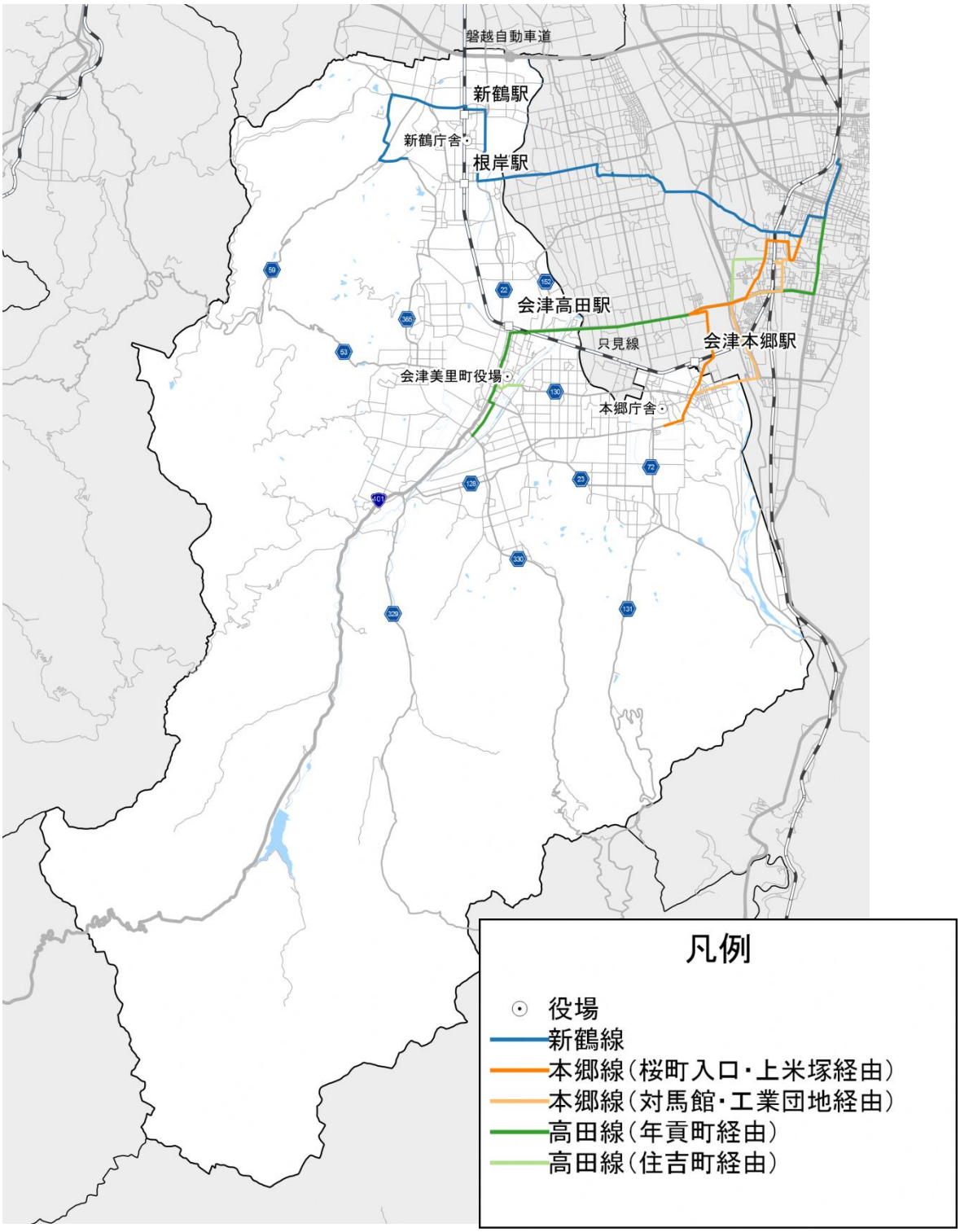
このことから、町内の移動に加えて、隣接自治体を跨ぐ移動手段の確保・維持が求められています。

４．地域の公共交通の現状

４－１　公共交通網の整備状況

（１）公共交通の運行状況

会津美里町には鉄道（ＪＲ只見線）、路線バス（会津バス）、デマンド交通（美里あいあいタクシー）、タクシーといった公共交通が運行しています。また、スクールバスなどの多様な交通モードが存在しています。



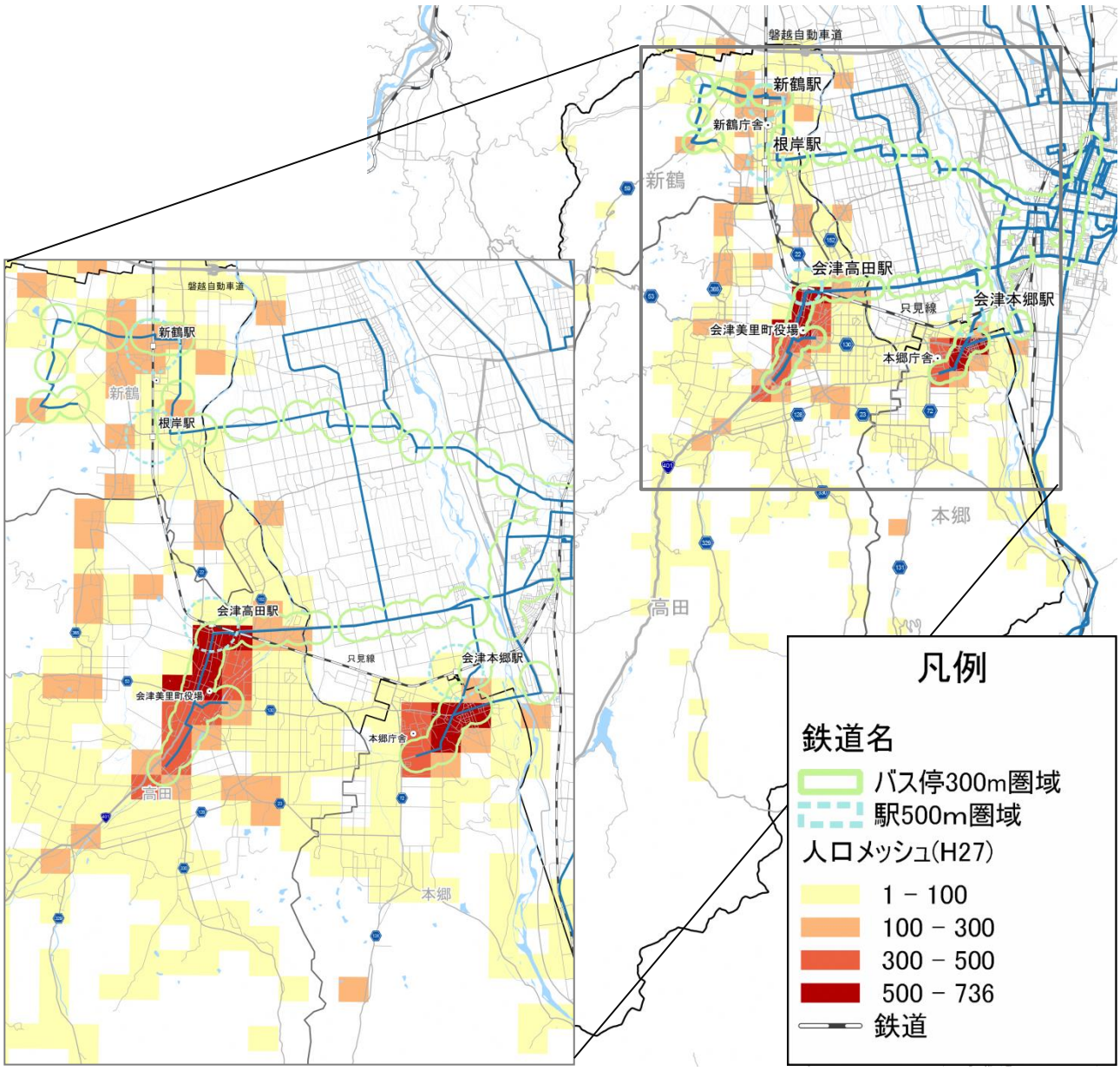
（２）公共交通のカバー状況

路線バスのバス停又は鉄道駅へ徒歩でのアクセスが可能な公共交通の利便性が高いエリア（バス停から半径３００m圏又は鉄道駅から半径５００m圏）に居住している人口は、町全体の約４２％となっていますが、デマンド交通も含めると１００％になります。

表　バス停、鉄道駅へ徒歩でアクセス可能な人口

区分	圏域内		圏域外		町合計	
	人口（人）	割合	人口（人）	割合	人口（人）	割合
バスが利用しやすい圏域	8,563	41%	12,350	59%	20,913	100%
鉄道が利用しやすい圏域	1,041	5%	19,872	95%	20,913	100%
バス＋鉄道が利用しやすい圏域	8,863	42%	12,050	58%	20,913	100%
バス＋鉄道＋デマンドが利用しやすい圏域	20,913	100%	0	0%	20,913	100%

資料：国勢調査（Ｈ２７）



４－２　ＪＲ只見線の運行･利用状況

（１）運行状況

会津美里町には、ＪＲ東日本が運行する只見線があり、会津本郷駅、会津高田駅、根岸駅、新鶴駅の４駅があり、町内の地域間を跨ぐ公共交通です。平日、休日ともに１日に上り７本、下り７本の合計１４本が運行しております。

表　会津美里町関連の鉄道概要

事業者	路線名	駅名	運行本数		有人駅	新鶴駅までの運賃	根岸駅までの運賃	会津高田駅までの運賃	会津本郷駅までの運賃	※会津若松駅までの定期料金
			上り	下り						
JR東日本	只見線	会津本郷駅	7本	7本	―	240円	210円	190円	―	20,420円
		会津高田駅	7本	7本	―	190円	190円	―	190円	29,180円
		根岸駅	7本	7本	―	140円	―	190円	210円	30,780円
		新鶴駅	7本	7本	―	―	140円	190円	240円	37,260円

出典：ＪＲ東日本 HP
※定期料金は、高校生定期６か月分を算出

（２）利用状況

ＪＲ東日本が公開している路線別の利用状況を見てみると、昭和６２年～平成２８年の間に７１２人減少し、年々利用者が減少していることが分かります。

事業者	路線名	区間	営業キロ（km）	平均通過人員（人/日）					
				S62	H24	H25	H26	H27	H28
JR東日本	只見線	会津若松～会津坂下	21.6	1,962	1,277	1,315	1,234	1,315	1,250

出典：ＪＲ東日本 HP

４－３ 路線バスの運行･利用状況

会津美里町においては、会津バス（会津乗合自動車株式会社）が路線バスを運行しています。会津若松駅前を起点として、高田・本郷・新鶴地域へバス路線が走っています。

高田地域方面には、「若松駅前バスターミナル～永井野」が年貢町経由と住吉町経由の２系統で運行しています（地域間幹線系統）。

本郷地域方面には、「若松駅前バスターミナル～本郷車庫」が上米塚経由と工業団地入口経由の２系統で運行しています（地域間幹線系統）。

新鶴地域方面には、「若松駅前バスターミナル～新鶴温泉線」が運行しています。

表 路線バスの運行概要(H30.4.1現在)

路線名	運行経由			運行本数（平日）		運行本数（休日）		運行日	運賃（最大）	※定期料金
	起点	経由	終点	上り	下り	上り	下り			
高田線（年貢町経由）	若松駅前バスターミナル	年貢町	永井野	8	8	8	8	平日土曜	740円	75,924円
高田線（住吉町経由）	若松駅前バスターミナル	住吉町	永井野	19	19	19	19	毎日	740円	75,924円
本郷線（桜町入口･上米塚経由）	若松駅前バスターミナル	上米塚	本郷車庫	7	6	7	6	毎日	580円	59,508円
本郷線（対馬館･工業団地経由）	若松駅前バスターミナル	工業団地入口	本郷車庫	5	6	5	6	毎日	580円	59,508円
新鶴線	若松駅前バスターミナル	新鶴駅	新鶴温泉	3	4	3	4	毎日	900円	92,340円

※定期料金は、通学生定期３か月分を算出

表 路線バスの運行実績など(H29年度)

路線名		輸送人員	経常収入（千円）			経常費用（千円）	収支率（%）	乗車密度	輸送量	町負担額（千円）
			合計	運送収入	営業外収入					
地域間幹線系統※	高田線（年貢町経由）	100,300	8,468	8,316	151	19,230	44.03%	2.0	13.0	715
	高田線（住吉町経由）	396,181	35,135	34,635	500	63,477	55.35%	2.7	51.0	2,828
	本郷線（桜町入口･上米塚経由）	84,874	7,522	7,397	125	15,861	47.42%	2.2	14.1	409
	本郷線（対馬館･工業団地経由）	74,898	7,335	7,231	103	13,184	55.63%	2.4	12.9	741
県単独補助	新鶴線	22,032	3,508	3,422	68	13,840	25.22%	1.3	4.2	6,535

※２０２０.９まで被災地特例で要件緩和

※２０２０.１０から通常補助要件適用のため、輸送量１５人以上/日必要

４－４ 美里あいあいタクシーの運行･利用状況

（１）導入目的

平成１９年１０月から、会津美里町全住民の利便の向上と地域活性化を目的に、乗合型の交通システムとして美里あいあいタクシーが運行されています。

美里あいあいタクシーは、会津美里町商工会が運営する乗合型タクシーで、電話予約により、運行区域である町内の自宅や指定の場所から目的地（戸口から戸口）まで、利用者の希望時間や乗車場所などの需用（デマンド）に合わせて複数の方が乗り合うシステムです。

導入における主なコンセプトとしては下記３点を設定しています。

① 交通・買い物弱者といわれる高齢者などへ安価で便利かつ安全な交通手段を提供する。
② 商店・商店街への来客数の増大と買い物支援サービスなどの多目的サービス展開による商工業活性化
③ 広域路線バスとの連携した交通ネットワークの形成

（２）運行状況

平成２９年度の運行日は、平日のみの運行で２４７日稼働しています。

利用するには、利用日の１週間前から利用当日の３０分前までに電話で予約（情報センター「まってらん処」）することで、町内のどこからどこまでも送迎出来ます。

平成２９年度の利用者数をみると、どの地域も2,０００人を超えており日別平均では１００人を超え、地域内の足として広く定着しています。

運行経費を一人あたりに換算すると、平成２９年度では、1，089 円/年となっています。

表 美里あいあいタクシーの運行状況（H30.4.1現在）

地域	エリア	運営主体	運行事業者	運行形態	運行日	運行本数（本/日）		運賃	車両	
						上り	下り			
高田	会津美里町内全域	会津美里町商工会	会津交通株式会社	乗合型タクシー(ドア･ツー･ドア)	月～金	7本	9本	330円（利用券支払）	ジャンボ車両1台	小型車午前3台午後1台
本郷									ジャンボ車両1台	
新鶴									ジャンボ車両1台	

【備考】

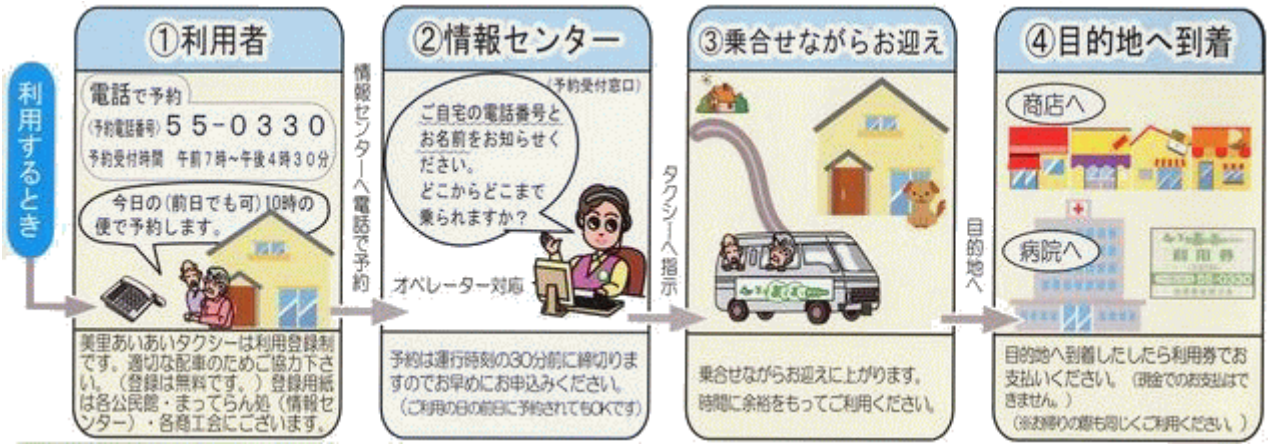
運行エリアは会津美里町内のみになり、３地域ごとにエリアを分けて運行。

なお、高田地域から本郷地域・新鶴地域、本郷地域から高田地域・新鶴地域、新鶴地域から高田地域・本郷地域のエリアに行く場合は、次の場所で乗り継ぎとなります。

【乗り継ぎ場所】 まってらん処、本郷インフォメーションセンター、新鶴庁舎

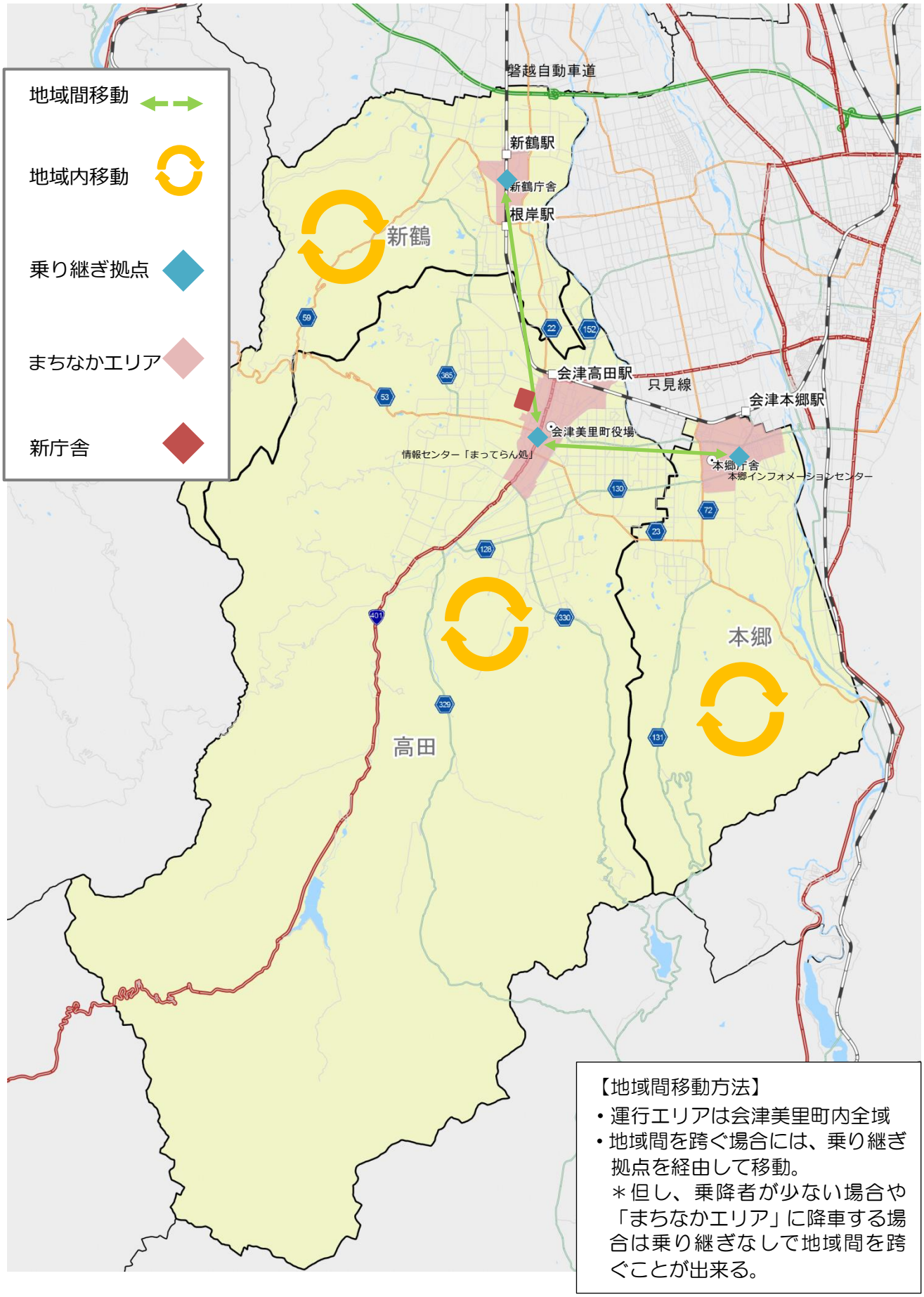
（３）利用方法と運行ルート

町内全域を対象とする美里あいあいタクシーを利用するには、時刻表を見て、事前に電話で予約する事で、オペレーターが他の予約者と一緒に配車ルートを調整し、電話で予約してから３０分～１時間後に自宅まで迎えに来るようになっています。



【時刻表】（Ｈ３０.４.１現在）

新鶴エリア、高田エリア、本郷エリア	
まちなか行き	帰り
8:00	8:30
9:00	9:30
10:00	10:30
11:00	11:30
	12:00
	13:30
14:00	14:30
15:00	15:30
16:00	16:30



【地域間移動方法】
- 運行エリアは会津美里町内全域
- 地域間を跨ぐ場合には、乗り継ぎ拠点を経由して移動。
  ＊但し、乗降者が少ない場合や「まちなかエリア」に降車する場合は乗り継ぎなしで地域間を跨ぐことが出来る。

（４）事業収支と利用者推移

平成２９年度の利用者実績によると、高田地域の利用が特に多く、全体の６７％を占めています。利用者収入は事業費全体の３３.５％にとどまり、「福島県市町村生活交通対策事業補助金」と「会津美里町デマンド交通システム運行事業補助金」を活用し事業を継続しています。また、平成２９年度の利用者推移によると、全体の傾向として７月から１１月の農業の繁忙期は利用が少なく、１２月から３月の冬期には利用者が増えています。

表　美里あいあいタクシーの事業収支（平成29年度）

地域	利用者数（人/年）	利用者収入（千円/年）	運行経費（千円/年）					補助額（千円/年）			利用収支率	利用者一人当たりの運行経費（円）	利用者一人当たりの補助額（円）
			合計	車両賃借料	人件費	システム保守費	システム通信費	合計	県補助額	町補助額			
高田	16,708	9,122	27,176	21,650	3,572	1,446	508	19,669	3,008	16,661	33.5%	1,089	788
本郷	4,769												
新鶴	3,197												
不明	280												
合計	24,954												

【備考】利用者収入はチケットによる販売数で算出しているので実際の利用者数合計と一致しません。

表　美里あいあいタクシー利用者一人当たりの推移　　単位：円

項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
運行経費（千円）	14,907	30,275	28,783	29,017	30,977	27,449	25,429	26,349	26,543	26,396	27,176
１人あたりの運行経費	1,211	1,069	1,110	1,125	1,181	1,064	1,012	1,133	1,139	1,087	1,089

※１人あたりの運行経費は、当該年度の運行経費/年間利用者数で算出

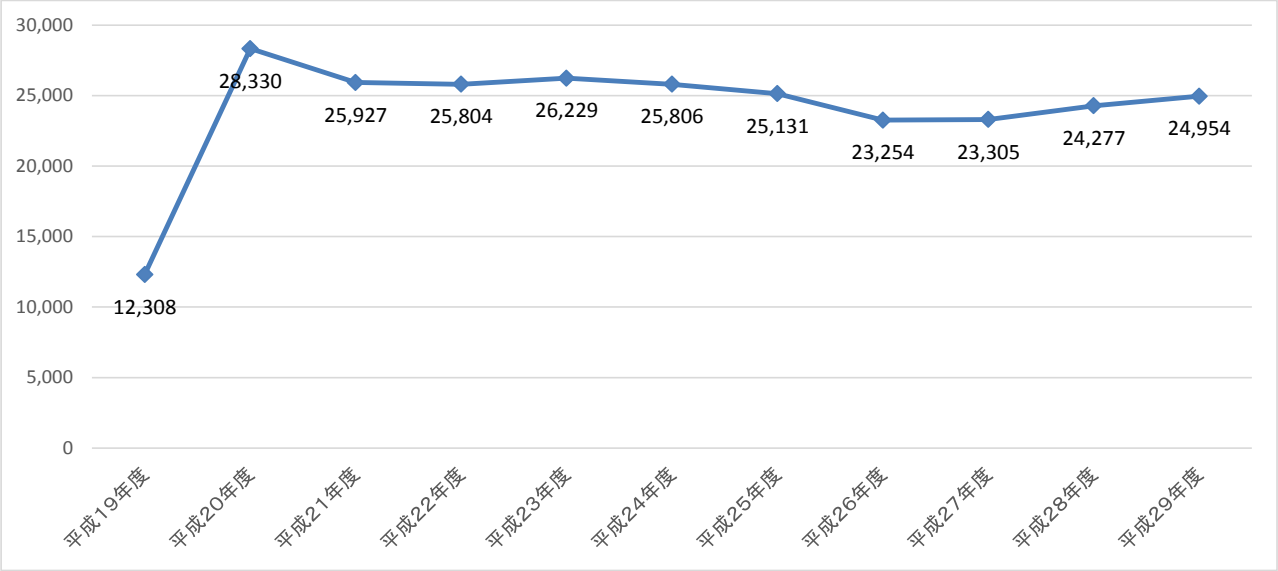


図　美里あいあいタクシーの利用者推移

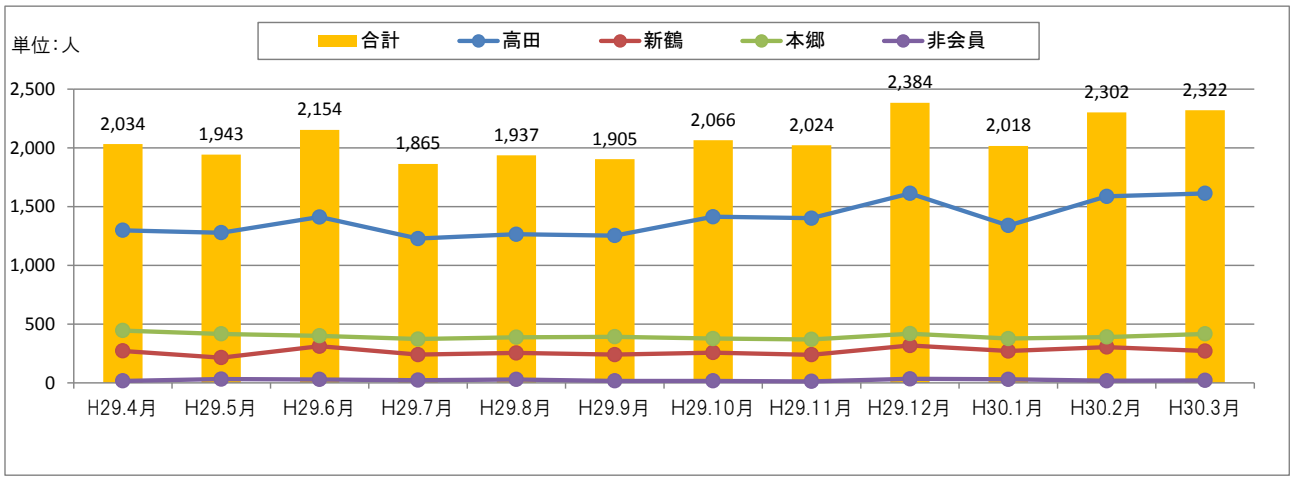


図　美里あいあいタクシーの地域別利用者推移（平成29年度）

（５）美里あいあいタクシーの検証結果

これまで実施した利用者アンケートの実態調査などの結果から「運行のねらい」などの達成状況を分析し、導入の効果検証とこれからの美里あいあいタクシーに求められる役割や課題を整理します。

【実態調査などの実施概要】
・利用者アンケート調査：平成25年7月実施／配布600部、回収273部
・平成28、29年度デマンド交通利用データ
・デマンド交通事業者ヒアリング調査：平成29年7月27日実施
・民生委員アンケート調査：平成29年11月22日～12月22日実施
・町民アンケート調査：平成30年1月29日～2月16日実施
・利用者アンケート調査：平成30年9月5日～9月14日実施

検証①：交通・買い物弱者といわれる高齢者などへ安価で、便利かつ安全な交通手段を提供

全体として、導入目的である交通・買い物弱者への交通手段の提供は、概ね果たしていると考えられます。

一方で、高齢者の特性に配慮して運行しているため、オペレーターやドライバーへの負担も見られます。

また、利用者の中には、介助を必要とする人や介護認定者も利用されており、送迎サービスのほかに福祉分野へ橋渡しする役割も求められています。

①デマンド運行方式についての評価

●運行方式は利用者、運行事業者ともに評価が高い

②運行方法・体制についての評価

●運行日・運行回数は概ね想定通り
●運行管理設備は概ね機能している。
●オペレーターの対応は非常にきめ細かくソフト面をカバーしている。

③エリア区分・まちなかエリアについての評価

●乗り継ぎ拠点の高田地域に人が集中する傾向がある。
●「まってらん処」は、待合場所として機能している。
●本郷地域と新鶴地域間のみの利用者は、高田地域で乗り換えなければならず不便を感じている。
●高田地域、本郷地域、新鶴地域にまちなかエリアが設定されている。

④運用体制についての評価

●商工会とタクシー会社とで連携が図られている。
●運行経費は概ね当初の計画通り
●利用料金は適当と回答した人が多い

⑤利用者についての評価

●高齢者の利用は非常に多く、概ね目標を達成している。
●土曜日の実証実験によると一日あたりの利用者数では半分の利用に留まっている。
●運転手やオペレーターの介助が必要な利用者が多い
●今後利用したいと考えている潜在ニーズがあり、高齢者には美里あいあいタクシーが認知されている。
●高齢者以外の人の利用は少ない

⑥その他についての評価

●利用方法が利用者に理解されていない。
●高齢者のための乗り物と認識されている。
●交通・買い物弱者対策だけでなく、生きがい創出機会としての役割も期待される。

検証②：商店･商店街への来客数の増大と買い物支援サービスなどの多目的サービス展開による商工業活性化

商店・商店街への来客数増大については、チケット購入時についでに買い物をするなどの消費拡大の効果が期待されますが、商店で買い物をする意識はあまり高くないと考えられます。

今後、地元商店と連携し、利用促進を図る取り組みが必要であると考えられます。

●利用促進への取り組みが弱い
●新庁舎移転に伴う商店・商店街への利用機会減少の恐れ

検証③：広域路線バスとの連携した交通ネットワークの形成

町内は美里あいあいタクシー、町外は路線バスという役割の棲み分けは出来ていると考えられます。

一方で、現在の運行時間と運行ルートでは路線バスとの接続が難しく、今後は町と交通事業者が連携して乗り継ぎしやすい環境を作ることも必要であると考えられます。

●乗り継ぎ拠点と路線バスとの接続が弱い

４－５ 公共交通に対するニーズ

町民・利用者などへの意向調査結果から、会津美里町における公共交通に対するニーズを整理します。

（１） ＪＲ只見線に対するニーズ

①駅周辺の待合環境の快適性

通勤、通学者及び観光客にとっては、鉄道を待つ時間に快適な待合環境を求めています。

●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

- 沿線の環境保持が不十分（雑草などが繁茂）（新鶴地域　女性）
- いつも駅の環境が悪く、鉄道を待っている時は基本的に外で待機している。（高校生　男性）
- 本郷駅の周辺が何もなさ過ぎるので、利用の多い時間帯や期間限定でも出店やイベントがあったらと思います（場所が町内ではないので難しいかと思いますが…）（本郷地域　女性）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査、平成２９年度町民アンケート調査

②高校生の下校に合わせた運行ダイヤの見直し

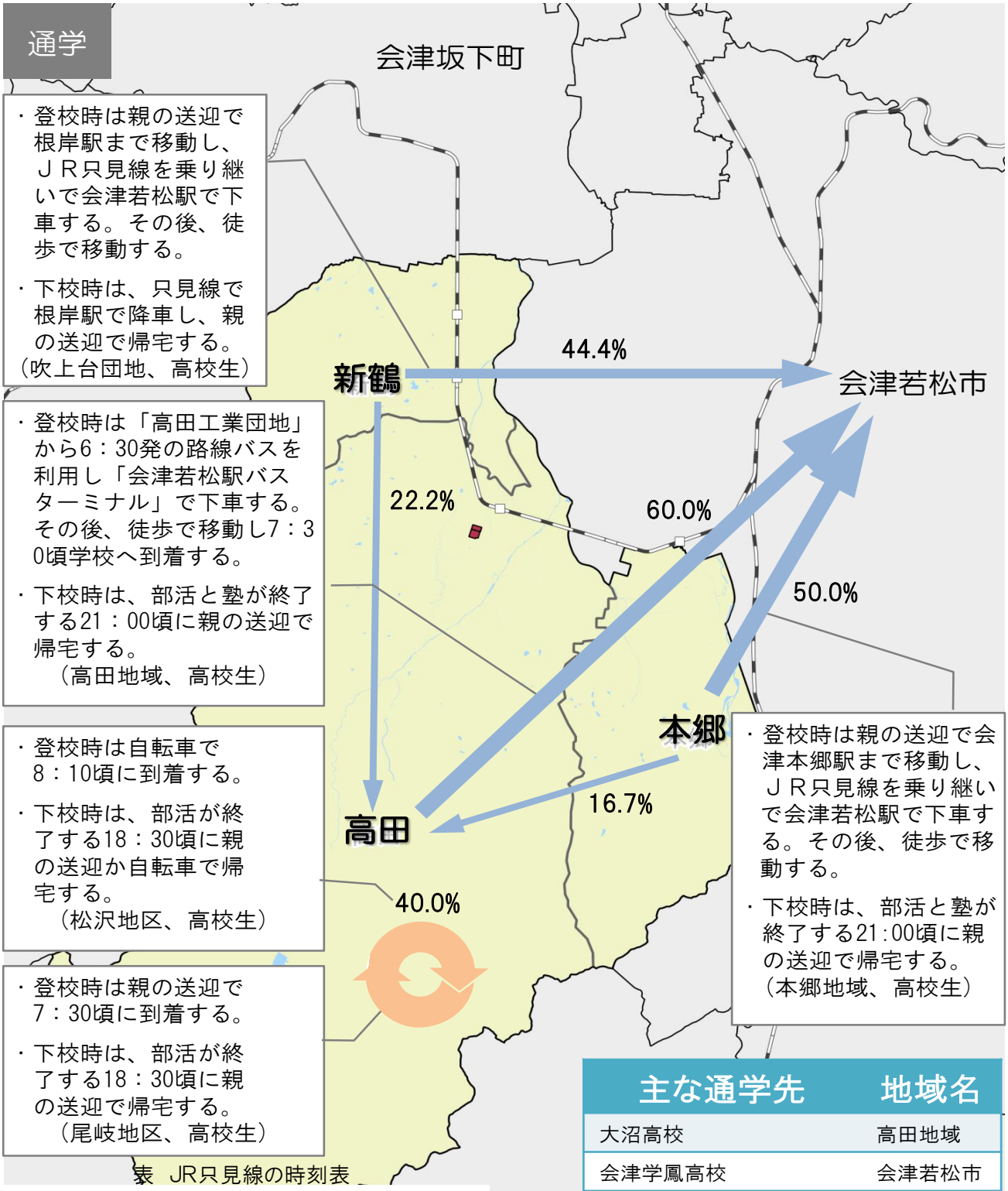
会津若松市内の高校に登下校している高校生の多くは、ＪＲ只見線を利用し登下校しております。しかしながら、下校時に合うＪＲ只見線の運行ダイヤが少なく、また、乗り遅れた場合には２時間近く次の便を待つか、両親の送迎に頼らざるを得ない状況にあることから、送迎負担の軽減と利便性向上が望まれています。

●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

- 電車は１本遅れると最大３～４時間待ちになるのが辛い。最終が１９時なのでそれに遅れると辛い。部活は１８時半ころまで。（高校生　女性）
- 部活動があると遅くなるので電車の時間に間に合わない。１７時以降の電車に乗りたいが、その次が１９時になってしまうので、帰りが遅くなってしまう。（高校生　女性）
- 下校時にちょうど良い時間帯にＪＲ只見線を運行してほしい。１４時から１６時までの間電車がないので迎えを呼んでいる。（高校生　女性）
- 美里あいあいタクシーに予約するよりは親に時間を伝えて直接送迎された方が良い。また、美里あいあいタクシーは登下校時間に運行していない。（高校生　女性）
- 美里あいあいタクシーの利用は、同じ駅から乗る人が結構いるので全員となると厳しいと思う。また、坂道なので自転車で下ればすぐなので、330 円かけて乗るならば自転車で行こうとなるので利用しにくいと思う。（高校生　男性）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査

通学



・登校時は親の送迎で根岸駅まで移動し、ＪＲ只見線を乗り継いで会津若松駅で下車する。その後、徒歩で移動する。

・下校時は、只見線で根岸駅で降車し、親の送迎で帰宅する。
（吹上台団地、高校生）

・登校時は「高田工業団地」から6：30発の路線バスを利用し「会津若松駅バスターミナル」で下車する。その後、徒歩で移動し7：30頃学校へ到着する。

・下校時は、部活と塾が終了する21：00頃に親の送迎で帰宅する。
（高田地域、高校生）

・登校時は自転車で8：10頃に到着する。

・下校時は、部活が終了する18：30頃に親の送迎か自転車で帰宅する。
（松沢地区、高校生）

・登校時は親の送迎で7：30頃に到着する。

・下校時は、部活が終了する18：30頃に親の送迎で帰宅する。
（尾岐地区、高校生）

・登校時は親の送迎で会津本郷駅まで移動し、ＪＲ只見線を乗り継いで会津若松駅で下車する。その後、徒歩で移動する。

・下校時は、部活と塾が終了する21:00頃に親の送迎で帰宅する。
（本郷地域、高校生）

主な通学先	地域名
大沼高校	高田地域
会津学鳳高校	会津若松市
会津高校	会津若松市
会津若松サベリオ学園	会津若松市
葵高校	会津若松市
川口高校	金山町

表　JR只見線の時刻表

新鶴駅⇔会津若松駅	
新鶴駅発⇒会津若松駅（上り）	会津若松駅⇒新鶴駅（下り）
6:49	6:00
8:32	7:37
10:04	13:07
13:55	16:57
16:45	17:40
18:31	19:41
20:29	21:42

2時間近く次の便が運行しない

（２）路線バスに対するニーズ

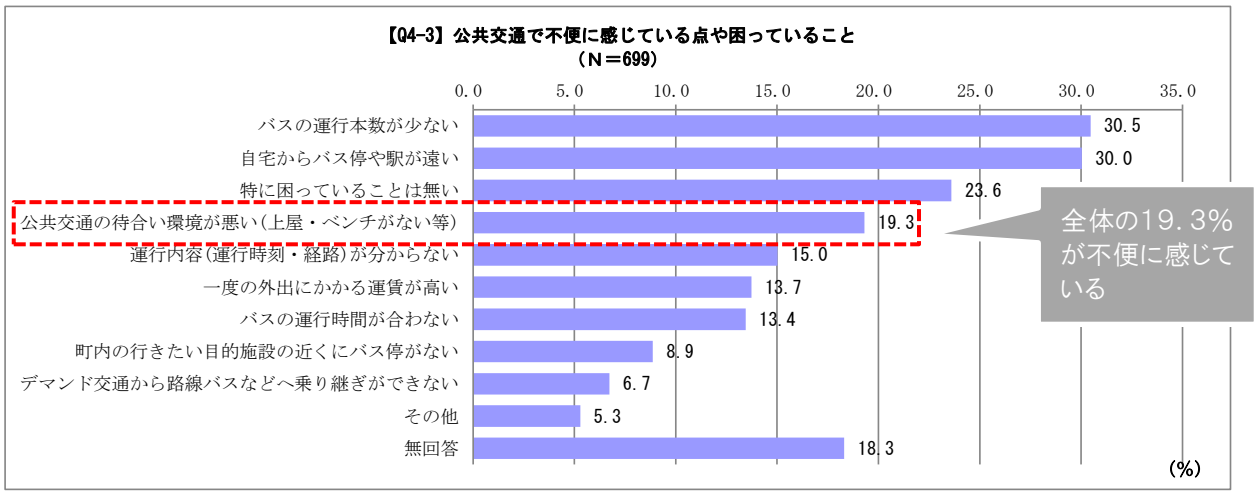
①バス停の待合環境の整備

バス停の周辺には待合所や上屋の無い停留所が多くあります。利用者にとっては、冬期も路線バスを待てる環境が望まれています。

●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

- バス停に屋根があると嬉しい。（高田地域　女性）
- 車両を待つ場所がない。待合環境を良くしてほしい。（本郷地域　女性）
- バス停に屋根もベンチもなく雨の日・暑い日などは大変だ。高齢者や観光客にもいい環境とは言えない。（本郷地域　女性）
- 路線バスに乗れないと「本郷車庫」で長い時間待っている事になる。せめて「本郷車庫」に腰掛ける場所があれば良いがそれもない。待合環境も良くしていただけると助かる。（本郷地域　女性）
- 利用していないが、待合環境は悪い。せめて雨・雪よけの待合スペースはほしい。（新鶴地域　女性）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査
平成２９年度町民アンケート調査



出典：平成２９年度町民アンケート調査

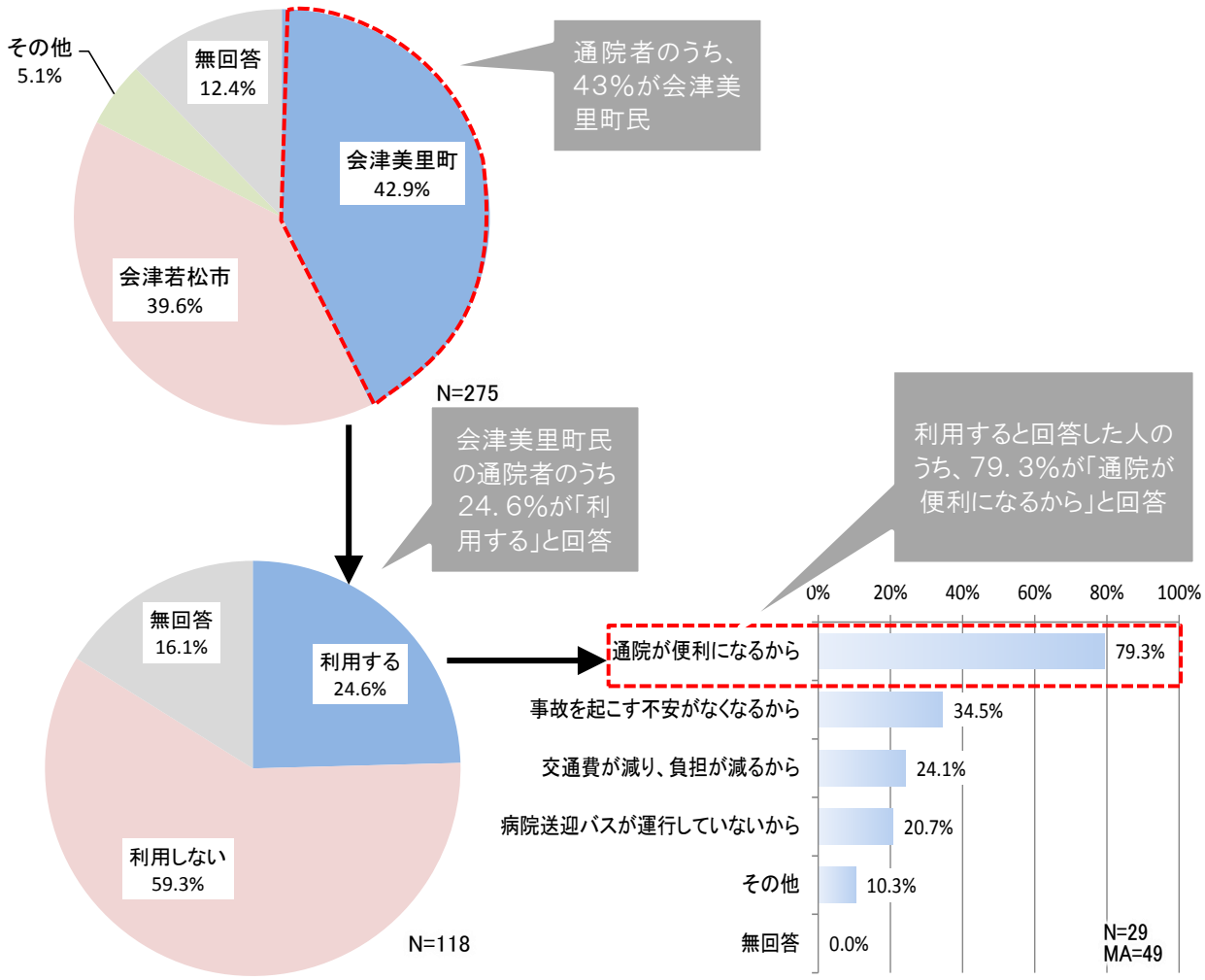
②会津西病院への乗り入れ

現在、本郷線（桜町入口・上米塚経由）においては「三本松西」までしかバス停がないため、会津西病院までは徒歩（５分程度）で移動し通院しています。病院利用者アンケートの調査結果によると、会津美里町在住で会津西病院へ通院している人（１１８人）の内、２４.６％（約２９人程度）が会津西病院への乗り入れを希望しています。

●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

・路線バス本郷線は、会津西病院の近くまで行っているが、２００～３００m歩かなければいけない。会津西病院の前まで運行することに関しては、いいと思う。片道だけでもあると便利。はせがわ整形外科クリニックに通っているが、股関節が痛くて歩けないのに、歩かなければいけないのが辛い。会津西病院の前に止まってもらえれば楽になる。（本郷地域女性）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査
平成２９年度町民アンケート調査



出典：平成３０年度病院利用者アンケート調査

③運行状況の把握

冬期は雪の影響で遅延する場合もあり、高校生の保護者及び通勤者から、路線バスの運行状況を把握したいというニーズがあります。

●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

- バスの運行状況によって、送迎に切り替えなければならないため、ロケーションシステムの導入を検討してほしい。（高田地域　女性）
- バスロケーションシステムは平成３０年４月１日から導入しましたが、利用には結びついていない。（交通事業者）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査
平成３０年度関係者ヒアリング調査
平成２９年度町民アンケート調査

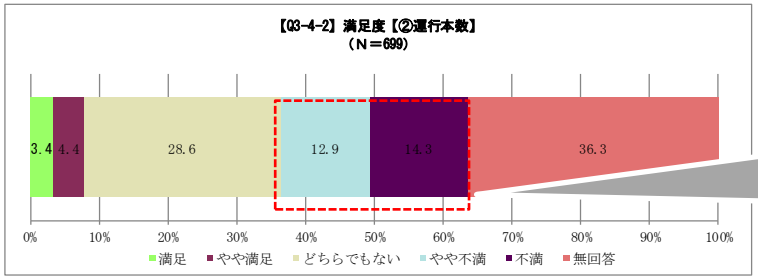
④運行本数、運行時間

１日に運行する本数及び運行時間について、買い物、通院、通学の利用実態と運行時間が合わず、運行本数及び運行時間について見直しが求められています。

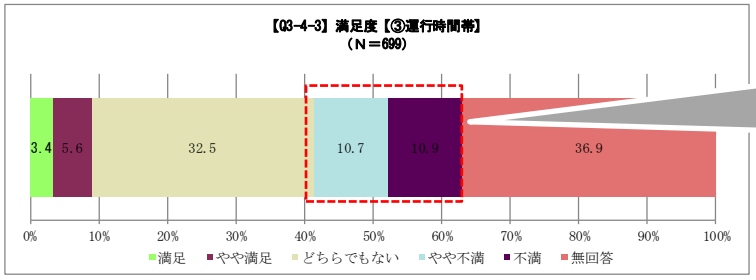
●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

- 自分が運転できなくなったらバスを使うようになるので、これ以上本数を減らさないでほしいです。（高田地域　女性）
- 最終のバス時間が早すぎる。子供の高校などの帰宅時バスがない。（高田地域　女性）
- 子供が通学でたまに利用するが、本数・時間帯が合わず不便に感じます。（本郷地域　女性）
- 運行本数が少なすぎて、必要な時当てにならない。（新鶴地域　女性）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査
平成２９年度町民アンケート調査



回答した人のうち、「やや不満」「不満」を合わせると27.2%が運行本数に不満を感じている。



回答した人のうち、「やや不満」「不満」を合わせると21.6%が運行時間帯に不満を感じている。

出典：平成２９年度町民アンケート調査

⑤路線バスの通学定期券はＪＲ只見線の通学定期券より高く一体的に利用したい

路線バスとＪＲ只見線の運賃を比較すると、ＪＲ只見線が安価のため、高校生はＪＲ只見線を利用する傾向があり、通学定期券の助成や、ＪＲ只見線と路線バスの双方が利用可能な共通定期券などの利用促進が求められています。

●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

- 路線バスとＪＲ只見線の料金を比較すると、ＪＲ只見線の方が非常に安価で移動できる。よって路線バスを通学時に利用する事は考えにくく、ＪＲ只見線が利用出来ない場合は親に送迎を依頼する。（高校生　男性）
- 路線バスと鉄道の料金が違い親としては鉄道料金の方が不便でも安いので鉄道での通学を勧めている。しかしながら、子供達からすれば、待ち時間が増え睡眠時間や勉強時間に影響が出てくるため、その両方を解決する手段として共通定期券を検討してほしい。（高校生保護者　男性）
- 路線バスが電車の定期代くらいで利用できるのであれば、バスの方が時間も多いので利便性が良い。（高校生保護者　女性）
- もっと安くなれば利用者も増えると思う。（通学利用など）（新鶴地域　女性）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査

⑥路線バスの乗り方案内の実施

普段、ＪＲ只見線で通学する高校生にとって、路線バスは使い慣れておらず利用しにくいという意見が挙げられました。路線バスに対する利用方法の周知が求められています。

●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

- バスの時刻・料金表の見方が分かりにくいため利用しにくい。（高校生　男性）
- 乗り方や運賃がいくらか分からない。バスによって違うし、親も乗ることがないので教えてもらえない。（高校生　男性）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査

（３）美里あいあいタクシーに対するニーズ

①美里あいあいタクシーにおける昼間（１２時から１３時台）の運行による移動

現在の美里あいあいタクシーの時刻表を見ると、昼間（１２時から１３時台）の「まちなか行き」及び「帰り」便の運行が望まれていることから、対応が求められています。

●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

- お昼頃（１２時、１３時）の便を追加してほしい。（高田地域　女性）
- １２時台又は１３時台の行きの便を運行してほしい。（新鶴地域　女性）
- お昼休みの時間を活用して買い物などの用事に使いたい。（高田地域　男性）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査
平成２９年度町民アンケート調査

表　美里あいあいタクシーの運行時刻

新鶴エリア、高田エリア、本郷エリア	
まちなか行き	帰り
8:00	8:30
9:00	9:30
10:00	10:30
11:00	11:30
	12:00
	13:30
14:00	14:30
15:00	15:30
16:00	16:30

昼間（12時から13時台）にまちなかへ行きたいというニーズがある

昼間（12時から13時）に帰りたいというニーズがある

②美里あいあいタクシーの土日運行

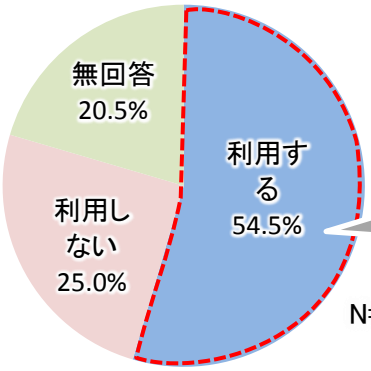
以前から、土日も買い物、通院、温泉利用などで美里あいあいタクシーを使いたいという要望が挙がっていました。これを受け、運行主体では平成２７年度、平成２８年度及び平成２９年度に計９回の土日の試験運行を行いましたが、平日の利用者と比べ約半数の利用にとどまっています。

しかしながら、じげんプラザ開所に伴い図書館、町民交流スペース、公民館ホールが休日も利用可能であることから、対応が求められています。

●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

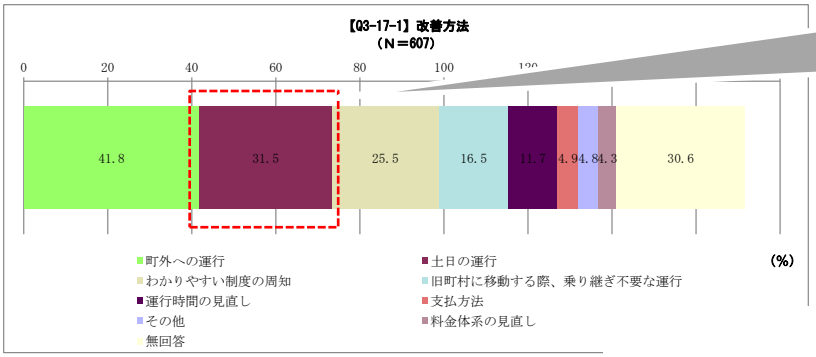
- 高田厚生病院が第２・第４土曜日も受診出来るため、その時だけでも運行してほしい。（高田地域　女性）
- 土日の運行に関しては、コンサートなどがあった場合や、夕方や夜など、美里あいあいタクシーを運行してほしい。（本郷地域　女性）
- 土曜日、高田厚生病院が午前中やっているのでその時間やってほしい。（会津美里町内　女性）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査
平成３０年度関係者ヒアリング調査
平成３０年度利用者アンケート調査
平成２９年度町民アンケート調査



休日に運行した場合の利用意向で回答した人のうち、「利用する」と回答した人は54.5%を占める。

出典：平成３０年度会津美里公共交通利用者アンケート



回答した人のうち、「土日の運行」と回答した人は31.5%を占める。

出典：平成 29 年度町民アンケート調査

表　美里あいあいタクシー休日運行概要

年度	実施日	利用者数（人）	利用比率	備考
H27	１０月１０日	２４	年間平均利用者比 25.3%	年間平均利用者数：９４.７人
	１０月２４日	３７	年間平均利用者比 39.1%	
	合計	６１	―	
H28	１０月８日	３９	年間平均利用者比 39.4%	年間平均利用者数：９９.１人
	１０月２２日	３５	年間平均利用者比 35.3%	
	合計	７４	―	
H29	１０月１日	１３	年間平均利用者比 13.2%	年間平均利用者数：９８.２人
	１０月２８日	１１	年間平均利用者比 11.2%	
	１１月３日	２２	年間平均利用者比 22.4%	
	１月１３日	３３	年間平均利用者比 33.6%	
	２月２５日	４５	年間平均利用者比 45.8%	
	合計	１２４	―	

出典：町提供資料

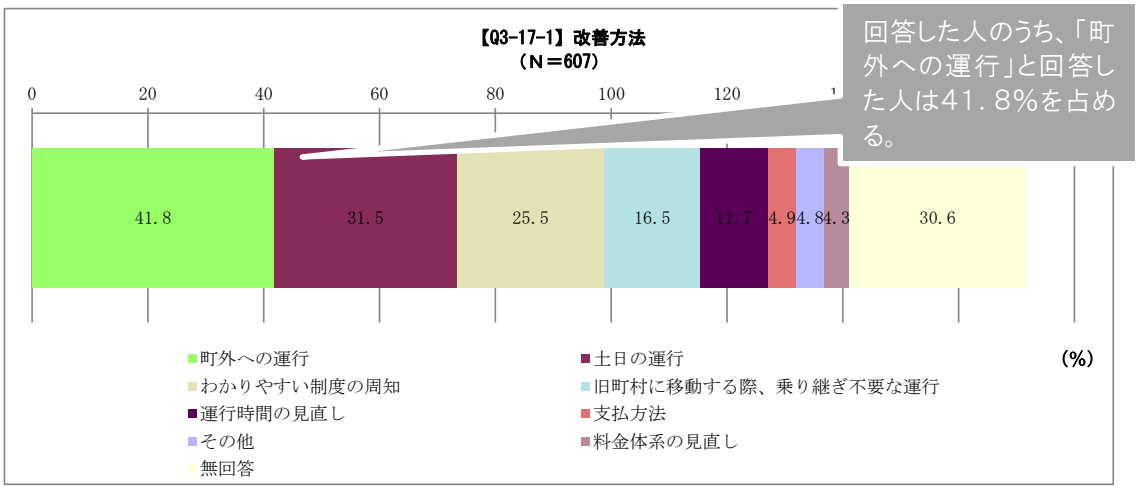
③隣接自治体（会津若松市･会津坂下町など）への広域交通との接続が弱い

日常的に、会津若松市や会津坂下町にある総合病院への通院や買い物などをされている方の主な要望として「美里あいあいタクシーの町外運行」が挙げられます。そのため、「安価で便利な移動手段の確立」及び「地域内交通から広域交通への接続の向上」が求められています。

●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

- 町外からは一般タクシー料金で構わないので、会津坂下町へ美里あいあいタクシーを運行してほしい。（高田地域　女性）
- 美里あいあいタクシーに乗車し、「本郷車庫」から8:１５又は9:２０発の路線バスに乗車したい。その場合、7:００に電話して7:３０に家の前で待つが、それでも間に合わない。（本郷地域　女性）
- 予約時間よりも早く車両が到着し、仕方なく乗車したが路線バスとうまく乗り継ぎ出来ずに「本郷車庫」で３０分以上待たされた時があった。もう少し、柔軟に対応していただけるとありがたい。（本郷地域　女性）
- 美里あいあいタクシーと路線バスの接続を良くしてほしい。（本郷地域　女性）
- 本郷地域から新鶴温泉へは乗り換えが必要なので不便。乗り継ぎが無ければもう少し利用したいと思っている。（本郷地域　女性）
- 乗り継ぎがあるならタクシーで行った方がいい。乗り継ぎするなら会津若松の病院へ直接言った方が楽。（本郷地域　女性）
- 料金が高くてもいいので町外の病院などにも行けるようにしてほしい。（新鶴地域　女性）
- 乗合の性質上、到着時刻が読めないため、乗り継ぎが難しい。（新鶴地域　女性）
- 美里あいあいタクシーの町外運行を認めると交通事業者の経営圧迫や地域外流出の拡大など運行体制が維持できない。（交通事業者）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査
平成３０年度交通事業者ヒアリング調査
平成２９年度町民アンケート調査



出典：平成２９年度町民アンケート調査

④利用方法の周知

美里あいあいタクシーの利用方法について、登録方法、利用券の販売所などの分かりやすい情報発信や、免許返納者や、観光客に対する美里あいあいタクシーの制度周知が求められています。

●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

- 運行会社が変わった後、押し車も乗せたかったが、拒否されてしまった。出来れば、利用説明会を開催して利用方法について細かく教えてほしい。（本郷地域　女性）
- 使い方や注意事項について事前に説明があれば良い。周知してほしい。（本郷地域　女性）
- 予約の際にシルバーカーの持ち込みについてなど、一言荷物があるかなど聞いてほしい。（本郷地域　女性）
- まだ自分で運転ができるので困っていないが、人口が減少する中で公共交通のあり方は今後大きく変化するものと思われる。あいあいタクシーにお世話になると思える。（本郷地域男性）
- 利用方法が分からない人は多いと思います。何かの行事とか会合とか集まる機会を利用してわかりやすく説明すれば、便利でお得な乗り物として利用者が増えると思います。（交通事業者）
- 町外の観光客へも利用していただけるように周知に力を入れてほしい。（交通事業者）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査
平成２９年度町民アンケート調査
平成２９年度交通事業者ヒアリング調査

⑤外出支援（公共交通）と移動支援（福祉分野）との役割分担

利用者の中には、現行のサービスで対応が難しい方がおり、移動支援（福祉分野）との役割分担が求められています。

●アンケート回答者及びグループインタビュー参加者の主な意見

- 乗り降りの時ステップが高く膝や腰に障害のある方は乗りにくいと思う。車椅子利用者の乗車は不可能。（新鶴地域　女性）
- 利用者の中には介助を必要とする人が多く、予約時に介護タクシーの利用を促しているが、なかなか結びついていない。ドライバーがチェックして、介護タクシーの必要がある利用者については次回の予約時点で、乗車をお断りするようにしている。（交通事業者）
- ドライバーから意見を聞いたが、高齢者で介護認定を持っている方が利用するケースがある。（交通事業者）

出典：平成３０年度町民グループインタビュー調査
平成２９年度町民アンケート調査
平成２９年度交通事業者ヒアリング調査

４－６　公共交通の現状･ニーズにみる問題点

前項までの各種データの整理を踏まえ、会津美里町における地域公共交通の現状・ニーズからみた公共交通の問題点を整理します。

（１）ＪＲ只見線の現状･ニーズにみる問題点

ＪＲ只見線と他交通モードとの接続が弱い

広域的な移動や地域間を跨ぐＪＲ只見線ですが、路線バス及び美里あいあいタクシーと接続されていません。鉄道は、公共交通として多くの人を運ぶ移動手段であり、鉄道駅からの観光二次交通の整備も求められていることから、他の交通モードとの連携を図る必要があります。

鉄道･路線バスの一体的な利用が難しく、双方のメリットを活かせない

会津若松駅の通学の移動手段として路線バスとＪＲ只見線があります。２つの公共交通を比較すると、路線バスは運行本数がＪＲ只見線に比べると多く、待ち時間も運休も少ない一方、朝の通学時間帯はＪＲ只見線の方が定時性を確保できます。このように双方にメリットがあるものの、運賃で比較するとＪＲ只見線が路線バスよりも安価のため、高校生は運行本数が少なく、帰りの待ち時間が長く、運休が多いというデメリットを認知しつつ、ＪＲ只見線を利用し、帰りは家族の送迎に頼っている傾向があります。

駅周辺の待合環境の整備体制がない

通勤、通学及び観光客にとっては、待合環境の快適性を求めておりますが、ＪＲ只見線の各駅の待合環境は、無人駅という事もあり維持・管理の面で難しい状況にあります。

（２）路線バスの現状･ニーズにみる問題点

人口が密集している地区をカバーしていない、交通拠点へアクセスしていない

人口分布状況をみると、人口密度が比較的高い居住地域に現在の路線バスの運行ルートではカバーできていない地区があります。また、本郷庁舎及び新鶴庁舎などの地域拠点となる施設にはアクセスがされていません。

被災地特例終了後、地域間幹線系統としての維持が困難な路線が出てくる恐れがある

現在、高田・本郷線の２路線（４系統）はそれぞれに国庫補助（地域間幹線系統）を活用していますが、国庫補助の許可を受けるには様々な補助要件があります。現在は、被災地特例により補助要件の緩和が適用されており、国庫補助を受けられていますが、平成３２年１０月以降は通常要件になるため、国庫補助路線の対象外となる路線・系統が出てくる恐れがあります。

（３）美里あいあいタクシーの現状にみる問題点

土日運行への対応

利用者から、土日運行へのニーズが挙がっていますが、試験運行の結果では、利用人数は平日の半分程度です。今後は、利用者のニーズと運営側の体制の両面を踏まえるとともに、商店街の活性化のほか、まちづくりや観光、福祉、生涯学習などの様々な分野にもたらす効果など、総合的な観点から検討することが求められています。

昼間（１２時から１３時台）の移動に対応していない

昼間における町内の移動手段に対する要望として、美里あいあいタクシーにおける１２時から１３時台の移動が求められています。

高校生の通学実態に合っていない

美里あいあいタクシーは、乗合型タクシーの性質上、目的地への到着時刻が定まらないことや、予約の手間、ＪＲ只見線や路線バスへの接続が弱いなど、高校生の通学手段の一つとして認識がされていないことから、親の送迎や自転車のほか、ＪＲ只見線や路線バスを利用し、町内や近隣市町の高校に通っています。

高校生の町内における移動手段の一つとして美里あいあいタクシーが認知されるよう、通学実態に即した運行が求められています。

隣接自治体（会津若松市･会津坂下町など）への広域交通との接続が弱い

日常的に、会津若松市や会津坂下町にある総合病院への通院や買い物などで、町外へ移動していますが、路線バス及びＪＲ只見線との接続する拠点がありません。

利用方法全般に対する周知不足（支払、乗車、荷物、ドア･ツー･ドア）

平成１９年１０月から１１年が経過した現在で、利用するまでの流れ、運賃の支払い方法、予約方法、荷物の取り扱い方などの利用上の注意事項について、運行事業者が柔軟に対応する場面が見受けられるため、利用者側の理解も必要となります。

平成２９年度では２４,９５４人が美里あいあいタクシーを使用していますが、収支率では３３.５％と補助金に大きく依存しています。町内全域をカバーする交通モードとしてより町民に利用してもらえる取り組みが求められています。

利用者の多くが高齢者なので、若い世代に対する美里あいあいタクシーの周知も必要です。併せて、高齢者が集う会合への貸切サービスや季節のイベントに合わせた美里あいあいタクシーのサービス提供など、現在の利用者と新規利用者の両側面から利用促進策を検討する必要があります。

５．公共交通の課題の整理

会津美里町の目指す方向性や地域及び公共交通の現状を踏まえると、持続可能な公共交通網を実現する上で、大きく４つの公共交通を取り巻く課題が挙げられます。

上位･関連計画などにおける公共交通の位置付け

総合計画における町の将来像の実現に向けて、利用者のニーズを把握し、利用しやすい公共交通の運行が求められている。
都市計画マスタープランが目指す「高田地域、本郷地域、新鶴地域の３地域の分散型の都市構造を維持し、既存市街地である各拠点の機能集積を高め、各拠点、集落を結ぶネットワーク機能を向上させる」役割が公共交通に求められている。
観光客が町内を周遊するための二次交通整備が求められている。
隣接自治体（会津若松市・会津坂下町など）への広域移動の維持・確保が求められている。
高齢者などの外出支援の充実に加え移動支援（福祉分野）との連携が求められている。
じげんプラザの開所に伴う移動手段の確保

地域の現状にみる問題点

人口減少に伴い、公共交通の確保・維持が難しくなる。
進行する高齢化に伴って、交通弱者の移動手段としての公共交通の役割は高まる。
観光資源を結ぶ公共交通の確保が求められている。
日常生活における、隣接自治体（会津若松市･会津坂下町など）への円滑な広域移動が求められている。

公共交通の現状･ニーズにみる問題点

JR只見線	ＪＲ只見線と他交通モードとの接続が弱い。
	鉄道・路線バスの一体的な利用が難しく、双方のメリットを活かせない。
	駅周辺の待合環境の整備体制がない。
路線バス	人口が密集している地区をカバーしていない、交通拠点へアクセスしていない。
	被災地特例終了後、地域間幹線系統としての維持が困難な路線が出てくる恐れがある。
美里あいあいタクシー	土日運行への対応
	昼間（１２時から１３時台）の移動に対応していない。
	高校生の通学実態に合っていない。
	隣接自治体（会津若松市・会津坂下町など）への広域交通との接続が弱い。
	利用方法全般に対する周知不足（支払、乗車、荷物、ドア・ツー・ドア）

公共交通を取り巻く課題

①町の将来像を見据えた公共交通ネットワーク（路線網と拠点）が必要

・都市計画上の市街地エリア（用途地域内など）における公共交通サービスの維持・向上が必要
・乗り継ぎが発生する交通結節点やバス停などにおいては、安全・快適かつ分かりやすい環境整備が必要

②広域移動及び地域間（町内）の移動を支える公共交通ネットワークが必要

・会津エリアの中心市である会津若松市や日常生活圏である会津坂下町などの隣接自治体にある広域都市機能（病院・商業施設など）にアクセスできる公共交通ネットワークの検討が必要
・高田・本郷・新鶴の３地域をつなぐ公共交通ネットワーク・拠点の形成、維持・強化が必要
・鉄道などによる来訪者の移動手段確保が必要

③利用実態や移動ニーズに対応した公共交通が必要

・車を運転しない・できない高齢者や高校生などの交通弱者の日常生活における移動手段の確保が必要
・利用の見込める施設・区間のサービス向上が必要（人口密集地区、公共施設、病院及び市街地の経由、鉄道との連携・役割分担など）
・利用の少ない路線・区間について、運行効率化に向けた運行形態や運行方法などの検討が必要

④持続可能な公共交通事業の確立が必要

・将来的に町民の移動手段を確保・維持していくために、交通モード間の重複・競合を避け、地域（町内）の公共交通（路線、交通事業者）を守り育てていくことが必要
・将来的に町民の移動手段を確保・維持していくために、広域路線バスの負担軽減と、利用率の多い区間へのサービス拡充により、広域の公共交通を守り育てていくことが必要
・公共交通の効果的な情報発信や、公共交通を利用すると買い物・飲食・観光などでお得になるような仕組みづくりが必要（商店街との連携強化など）

6．基本的な方針と目標

6－1　基本理念･基本方針

町の将来像や公共交通を取り巻く現状･課題などを踏まえ、本計画の基本理念と基本方針などを以下のとおり設定します。

【基本理念】

安心して住み続けられる便利で持続可能な公共交通網の形成を目指す

【基本方針】

基本方針１　町民の生活と交流を支える地域公共交通の構築

基本方針２　利用者ニーズに合わせた便利で快適な地域公共交通の構築

基本方針３　まちづくりと連動した地域公共交通の構築

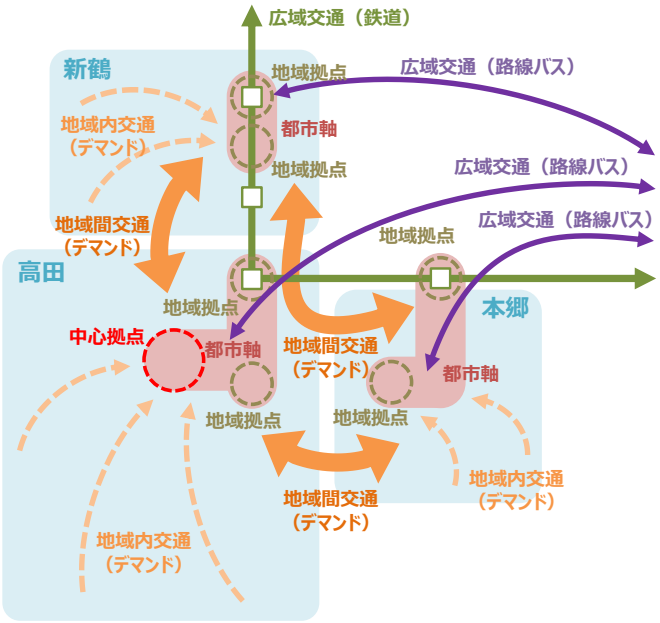
基本方針４　将来にわたり持続可能な地域公共交通の構築

【将来の公共交通ネットワーク形成の考え方】

町の将来像を見据えた公共交通網を構築するため、会津美里町都市計画マスタープランで位置付けている「拠点」を基点とし、隣接する市町村への移動、拠点間の移動、中心市街地と山間部の移動を支える「軸」の形成を目指します。

①重要なまちづくりの軸となる公共交通（都市軸）

②町内の３地域（高田･本郷･新鶴）間を結ぶ公共交通（地域間交通）や町内移動を担う公共交通（地域内交通）

③町内と隣接市町を結ぶ公共交通（広域交通）

④上記①～③を結節する都市軸上の交通拠点